

以下余の研究は一八七九年乃至一九〇八年に亘るものである。其の一八七九年を出発点とした理由は、此の問題に關する最も貴重なる資料は多く此の年より以前の時期には利用するを得ざること、且一八七九年は正貨償還復活の年であつて、爲めに此の問題が總て皆等價なる通貨に限られることに依り可なり簡單化されるからである。

一八八三年、一八八四年、及び一八八五會計年度を書本を通じて基本年度とし、右三箇年の單純平均を指數の計算に當つて常に一〇〇とした。

本論文に收められた統計表を理解するに當つては、次の諸點を記憶しなければならぬ。即ち計算の單位とされた時間は會計年度であるけれども、調査の對象となつた經濟現象の移動は固より何等右の如き一定の年度に分割せるものに非ず、従つて遂年に亘つて繼續的な重複が存在するのであつて、又相關連せる經濟作用が實際に其の影響を生ずるには一定の時間を要するが故に、一年度の終りに近い頃に生じた現象は殆んど全く其の翌年度に於て其の影響を生ずるであらう。然し乍ら、吾人に特に關係があるのは寧ろ研究したる種々

なる働因の一般的移動であつて、遂年度に於ける特殊的移動ではない。但し固より後者も其の意義を決して看過することは出来ぬ。

説明を明瞭ならしむる爲め、本問題中の各種の働因は次の順序を以て考察することとする。(一)流通媒介物の數量 ( $N+O$ )、(二)流通媒介物の移動速度 ( $R$  及  $R_0$ )、(三)物貨供給量 ( $Z+N$ )、及び最後に一般價格水準 ( $P$ ) 之である。而して吾人の目的とする處は數字的に右數項の絶對値を計算するに非ずして、寧ろ一八七九年より一九〇八年に至る間の其の相對的移動を測定せんとするに在る。

## 第二章 貨幣流通額

本章に於ける吾人の問題は、一八七九年より一九〇八年に至る間の各年度に付き、合衆國に於ける相對的貨幣流通額及銀行準備金として保たるる相對的數量である。

合衆國に於ける貨幣流通量に關して最も信頼すべき報告は大藏省の出版物である。然し乍ら其の計算は唯概算的な近似値に過ぎざることには次に掲げた其の算出方法に依つて知らるるが如くである。一八七三年に行はれた第一回の計算は概算的な測定であつて、爾後一切の年度の計算の基礎とされたのである。一八九八年四月「ゲイジ」卿 (Secretary Gage) は此の計算に用ひられた方法に關して述べて曰く〔註〕

一八七三年より後に於ける各年度の測定は、右一八七三年に於ける鑄貨の在高に毎年の鑄幣高及内國鑄貨の輸入高を加へ、之より合衆國鑄貨の再鑄に依る減少高、輸出高及

び産業美術に用ひられたものと測定せらるる高を差引いて得たものである。

〔註〕 Gold in Circulation, in Yale Review, VII. 105 (May, 1898).

斯くの如き計算に依る數字は固より不正確の譏は免れぬけれども、然し乍ら之より以上に到達することは不可能である。且つ吾人に特に關係があるのは遂年に於ける相對的變動であつて、絶對額ではないのであるから、此の數字の不正確は、吾人の目的より考ふれば、一見して考へらるる程には吾人を誤らしむるものではない。

合衆國「統計要覽」(Statistical Abstracts) は吾人が調査すべき期間中各年度の六月一日に於ける國立銀行券 (National bank notes) を包含する貨幣流通總額を與へて居る。然し乍ら其の與へたる數字は唯毎年一日のみに關するものであつて、六月一日の流通額が果して該年度の典型的なるものなりや否やは固より言ふを俟たぬ。例へば一九〇八年の六月

一日の方が一九〇七年の六月一日よりも、一九〇八年六月三十日に終る會計年度の平均流通額を代表するものであることには何等信すべき根拠が無い。後者が該會計年度の初に於ける流通額を示すものならば、前者は該年度の終りに於ける流通額を示すものである。故に右兩日に於ける流通額の平均數の方が、右兩日各自の數字よりも該年度のより代表的な數字である。是れ本章の終りに付したる表中、各年度貨幣流通額を示す數字の基礎である。

貨幣『流通』總額中可なりな部分は現金取引に依る現實なる取引界から繼續的に撤退せられ銀行準備金〔註一〕として其の國小切手流通量を支持する作用を爲すのである。斯くの如く繼續的に固定せらるる貨幣の數量は、物貨と交換せらるること無く、唯貨幣に對する實際的需要を生じ且つ小切手流通量を支持することに因つて間接に物價に影響するのみである。此の種の貨幣が銀行の地下室に保存せらるる限り數量説謂ふ所の意味に於ける交換を爲すものに非ず、其の流通速度は零なるが故に公式中  $M_2$  より打消されるのである。又

既に述べたるが如く〔註二〕「ミル」は銀行準備金を永續的貯藏金中に分類し、數量説謂ふ所の意味に於ける貨幣供給額中に包含せらるるものに非ずと主張した。銀行準備金を貨幣供給額中に包含せしむるも、又は包含せしめざるも、何れにしても數量説は正しいのであるけれども、銀行準備金を流通媒介よ物り除外して、之を其の國小切手流通量の基礎として取扱つた方が數量説の原則を一層容易に説明し得られ且其の正否もより容易に檢するを得るであらう。〔註三〕

〔註一〕 銀行準備金なる語は本書を通じて實際手許に置かれる現金を言ふのであつて、國立銀行條例の規定する法定準備金を指すのではない。後述一九二註三参照。

〔註二〕 前掲四一。

〔註三〕 前掲一七七註参照。

今問題とせる期間中途年に於ける米國貨幣中銀行準備金に固定せらるる數量に關して利用し得べき報告は充分満足なるものではない。大藏省銀行監督官 (Comptroller of the Currency) 年報は右の全期間を通じ毎年典型的なる五個日に付て取つた國立銀行現金殘額を示す數字を與へて居る。之に與へられた毎會計年度に付いての五個日の數字を平均したものは國立銀行が各年度中維持する貨幣平均額に付て相當正確なる觀念を與ふるものである。然し乍ら國立銀行以外の銀行に關して利用し得べき資料は不幸にして夫程完全にして満足し得べきものではない。此の種の銀行に付て大藏省銀行監督官は最近の報告に於て述べて曰く、〔註〕

……州及屬領の權威の下に組織せらるる銀行、金融機關及び貯蓄銀行の状態に關する報告、及び其の監督權を有する州當局又は其他信憑すべき出所よりの回答を得て、之を議會に送るべき監督官報告書に於いて公表すべきこと、法律を以て大藏省銀行監督官の義務とせられて居る。然し法人銀行及金融機關の監督に關しては合衆國

大多數の州が規定する處なるも、個人銀行及銀行業者より報告を求め又は何等かの監督を爲すものは尠少に過ぎない。而して銀行及び金融機關より得たる回答を次の如く分類すること、銀行監督局過去多年の習慣である。即ち州立銀行(割引及預金銀行)、貸附及信託會社、相互貯蓄機關(株式資金を有せざるもの)、株式貯蓄銀行、及個人銀行之である。今記録を細心に調べたならば、最初の二種の銀行中約九〇「パーセント」は州當局又は直接本監督局に其の報告を提出せることを知るであらう。相互貯蓄銀行に付ては「デラウェア」及び「メリーランド」州に在るものを除き、總て皆官廳を通じて報告して居る。個人銀行及び銀行業者は監督局に其の状態に關する報告を供することを好まざる所あるものの如く、従つて二〇乃至二五%しか申告の要求に應じて呉れない。然し乍ら以上一切の種類の回答を總計して見ると、報告を爲したる銀行は實際上に於ては合衆國銀行資金の八三%を示せることを知るのである。

以上述べたる所に據り、銀行監督官報告に與へられたる數字は個人銀行を除く一切の種類の銀行に付ては相當完全なるものであることが判る。而して一九〇四年度銀行監督官報告は右年度に於ける各種銀行準備金を示して曰く〔註一〕

銀行行數	銀行ノ性質	準備金額
5,412	國立銀行〔註二〕	690(百萬弗)
6,923	州立銀行	211
595	貸付及信託會社	61
1,157	貯蓄銀行〔註三〕	25
854	個人銀行〔註四〕	6
14,931		993

今若し個人銀行の四分の三が報告を爲さずとし、且此の無報告個人銀行は報告を爲せる個人銀行の行數と比較して其の行數に正比例せる準備金額を維持するものと假定すれば、一九〇四年度に於ける個人銀行準備金總額は僅に二千四百萬弗即ち一切の銀行の準備金總額の二一「パーセント」にも當らざる額に登るに過ぎないことになる。斯く個人銀行の準備金が比較的重要なならざること、吾人に特に關係があるのは寧ろ遂年に於ける銀行準備金の相對的増減であつて其の絕對値に非ざること、及び無報告銀行の準備金と報告を爲せる銀行の夫れとの割合が殆んど不變であると推定せらるるに鑑みれば、大藏省銀行監督官の與へたる數字は本書の企てたるが如き性質を有する研究の目的に對しては恐らく銀行準備金の大きさを示す指數として相當満足せらるべきものであらう。

〔註一〕 Report, I. 9, 219, 421. 前掲一八七註參照。

〔註二〕 一九〇四年九月六日に於ける計算。

額

(P. 192-193)

IV 一切ノ銀行ノ貨 幣準備金見積額		V 銀行準備金ヲ除 ク貨幣流通額	
金額 00,000	指 數	金額 000,000	指 數
216 <sup>幣</sup>	61	558 <sup>幣</sup>	63
285	81	611	69
295	84	749	85
287	82	857	97
321	91	881	100
321	91	916	104
414	118	854	97
375	107	898	102
433	123	852	96
443	126	902	102
504	143	872	99
478	136	927	105
482	137	981	111
560	159	989	112
541	154	1,058	120
668	190	961	109
616	175	1,015	115
529	150	1,025	116
607	172	966	109
650	185	1,089	123
708	201	1,163	132
728	207	1,252	142
800	227	1,315	149
821	233	1,391	157
845	240	1,414	160
882	251	1,511	171
997	283	1,557	176
1,012	287	1,650	187
1,083	308	1,739	197
1,191	367	1,756	199

〔註三〕 貯蓄銀行の準備金は、本研究の如き性質を有する研究に於ては、合衆國銀行準備金中より之を除外する方恐らく妥當であらう。何となれば此等準備金は普通何等預金通貨の基礎たるべきものではないからである。然し乍ら銀行監督官は今研究せんとする期間の大部分に亘つて他の銀行準備金から之を分つことをなさなかつたし、且そは比較的少額であるからして、之を他の銀行の準備金と一緒に包含したことに伴ふ誤差は重大なるものではない。

〔註四〕 一九〇八年に於ては千七行にて約八百五十萬弗であつた。Ib., 408.

次に掲げた貨幣流通表は本章の結論を爲すものである。而して是れ以上同表に付て説明することは後述第八章に於て價格公式  $(P_s = \frac{MR + CR_c}{N + N_c})$  中の他の働因の相對的數値を測定し得る時迄之を待つこととする。次章に於ては余は我國小切手流通量、即ち公式中  $CR_c$  の相對値を算出せんことを試むるであらう。

# 貨幣流通額

(P. 192-198)

年度 (毎年六月 卅日=終 ル)	I 貨幣流通額		II 国立銀行貨幣 準備金		III 国立以外ノ銀 行貨幣準備金 見積額	IV 一切ノ銀行ノ貨 幣準備金見積額		V 銀行準備金ヲ除 ク貨幣流通額	
	金額 000,000	指 數	金額 000,000	指 數	金 額 000,000	金額 000,000	指 數	金額 000,000	指 數
1879	774 <sup>#</sup>	63	151 <sup>#</sup>	64		216 <sup>#</sup>	61	558 <sup>#</sup>	63
1880	896	73	173	74		285	81	611	69
1881	1,014	84	201	86		295	84	749	85
1882	1,144	93	203	86		287	82	857	97
1883	1,202	97	204	87		321	91	881	100
1884	1,237	100	227	97		321	91	916	104
1885	1,268	103	275	117		414	118	854	97
1886	1,273	103	269	114		375	107	898	102
1887	1,285	104	267	114		433	123	852	96
1888	1,345	109	282	120	161 <sup>#</sup>	443	126	902	102
1889	1,376	111	304	129	200	504	143	872	99
1890	1,405	114	293	125	185	478	136	927	105
1891	1,463	118	316	134	166	482	137	981	111
1892	1,519	125	362	154	198	560	159	989	112
1893	1,599	129	335	143	206	541	154	1,058	120
1894	1,629	132	439	187	229	668	190	961	109
1895	1,631	132	388	165	228	616	175	1,015	115
1896	1,554	126	360	153	169	529	150	1,025	116
1897	1,573	127	414	176	193	607	172	966	109
1898	1,739	141	455	193	195	650	185	1,089	123
1899	1,871	151	497	211	211	708	201	1,163	132
1900	1,980	160	507	215	221	728	207	1,252	142
1901	2,115	171	560	238	240	800	227	1,315	149
1902	2,212	179	570	242	251	821	233	1,391	157
1903	2,259	183	569	242	276	845	240	1,414	160
1904	2,393	194	580	246	302	882	251	1,511	171
1905	2,554	207	683	290	314	997	283	1,557	176
1906	2,662	215	677	288	335	1,012	287	1,650	187
1907	2,822	228	691	294	392	1,083	308	1,739	197
1908	3,047	247	812	345	479	1,291	367	1,756	199

次に掲げた貨幣流通表は本章の結論を爲すものである。而して是れ以上同表に付て説明することは後述第八章に於て價格公式  $(P_s = \frac{MR + CR_c}{N + N_c})$  中の他の働因の相對的數値を測定し得る時迄之を待つこととする。次章に於ては余は我國小切手流通量、即ち公式中  $CR_c$  の相對値を算出せんことを試むるであらう。

〔註三〕 貯蓄銀行の準備金は、本研究の如き性質を有する研究に於ては、合衆國銀行準備金中より之を除外する方恐らく妥當であらう。何となれば此等準備金は普通何等預金通貨の基礎たるべきものではないからである。然し乍ら銀行監督官は今研究せんとする期間の大部分に亘つて他の銀行準備金から之を分つことをなさなかつたし、且そは比較的少額であるからして、之を他の銀行の準備金と一緒に包含したことに伴ふ誤差は重大なるものではない。

〔註四〕 一九〇八年に於ては千七行にて約八百五十萬弗であつた。Ib., 408.

附 表 第 一 号

年 度	I 現金、預金、有価証券		II 貸付金		III 債権		IV 負債	
	千圓	百圓	千圓	百圓	千圓	百圓	千圓	百圓
1900	1,000	100	2,000	200	3,000	300	4,000	400
1901	1,100	110	2,100	210	3,100	310	4,100	410
1902	1,200	120	2,200	220	3,200	320	4,200	420
1903	1,300	130	2,300	230	3,300	330	4,300	430
1904	1,400	140	2,400	240	3,400	340	4,400	440
1905	1,500	150	2,500	250	3,500	350	4,500	450
1906	1,600	160	2,600	260	3,600	360	4,600	460
1907	1,700	170	2,700	270	3,700	370	4,700	470
1908	1,800	180	2,800	280	3,800	380	4,800	480
1909	1,900	190	2,900	290	3,900	390	4,900	490
1910	2,000	200	3,000	300	4,000	400	5,000	500
1911	2,100	210	3,100	310	4,100	410	5,100	510
1912	2,200	220	3,200	320	4,200	420	5,200	520
1913	2,300	230	3,300	330	4,300	430	5,300	530
1914	2,400	240	3,400	340	4,400	440	5,400	540
1915	2,500	250	3,500	350	4,500	450	5,500	550
1916	2,600	260	3,600	360	4,600	460	5,600	560
1917	2,700	270	3,700	370	4,700	470	5,700	570
1918	2,800	280	3,800	380	4,800	480	5,800	580
1919	2,900	290	3,900	390	4,900	490	5,900	590
1920	3,000	300	4,000	400	5,000	500	6,000	600
1921	3,100	310	4,100	410	5,100	510	6,100	610
1922	3,200	320	4,200	420	5,200	520	6,200	620
1923	3,300	330	4,300	430	5,300	530	6,300	630
1924	3,400	340	4,400	440	5,400	540	6,400	640
1925	3,500	350	4,500	450	5,500	550	6,500	650
1926	3,600	360	4,600	460	5,600	560	6,600	660
1927	3,700	370	4,700	470	5,700	570	6,700	670
1928	3,800	380	4,800	480	5,800	580	6,800	680
1929	3,900	390	4,900	490	5,900	590	6,900	690
1930	4,000	400	5,000	500	6,000	600	7,000	700

「貨幣流通額」表に付て

各年度に於ける貨幣流通額を示す数字（第一欄）は當該會計年度の始に於ける流通額と其の終に於ける流通額との平均数を示すものである。（Statistical Abstracts of the United States, 1900, 1902, 1904, and 1908.）国立銀行の貨幣準備金を示す数字（第二欄）は次の諸項を合計して計上したものである。即ち（一）各會計年度中監督官に報告された五個日に於いて、国立銀行に保持された『法定貨幣』（Lawful money）（小額鑄貨を含む）の平均数（Report of the Comptroller of the Currency 1904, I, 214—219, 523—539; 1908, I, 520—523）（二）右と同日に維持せられた他の国立銀行の銀行券平均額、（三）一九〇〇年及一九〇一年に付ては、強制法貨としての合衆國證券を法定貨幣準備金の一部分として計算することを許可せる條例の廢止されたる時、即ち一九〇〇年三月十四日以後に於ける銀行監督官報告日に国立銀行が兌換準備の爲めに維持した強制法貨としての合衆國證券の平均額、之である。国立銀行以外の銀行



の貨幣準備金見積額を示す數字(第三欄)は右と同一の報告より採録した。(424, 1417)。  
又一切の銀行の貨幣準備金見積總額を示す數字(第四欄)の中一八七九年乃至一八八八年の期間のものは一九〇四年度銀行監督官報告より採り(四四二頁)、一八八八年乃至一九〇八年の期間のものは國立銀行準備金(第二欄)に國立銀行以外の銀行の準備金(第三欄)を加へて計上したものである。

### 第三章 小切手流通量

本章に於ける吾人の問題は、吾人の研究が亘る期間に於ける合衆國商業取引中小切手及現金支拂の相對比を測定することである。前章に於て吾人は其の研究資料が貨幣流通額を測定するに不完全なることを知つたが、不幸にして本章に於ては更に遙かに不完全なることが知らるるであらう。然し乍ら資料貧弱とは言へ、全く無きには勝るのである。加之、其の誤差は恒常的なものであつて、寧ろ或ひは或程度に於ては互に打消さるべしとするところには可なりの蓋然性が有るのであつて、又吾人の問題とする所は比例問題にして絶對値の問題には非ざるが故に、恐らく右の資料不完全より生ずる誤差は一見して考へらるる程の結果に及ばず影響は重大でないであらう。

既に一八五七年に商業取引中現金及小切手の相對値を求めんとする調査が英國に於て行

はれた。即ち同年、「スレイター」氏銀行 (Banking house of Mr. Slater) の報告が示す所に據れば其の受入額及び支拂額中に於ける百分比は金銀貨三%未滿、信用證券九〇%、及英蘭銀行券七%である。〔註〕

〔註〕 Report of the Secretary of the Treasury, 1896, 456.

一八六五年六月、「サー・ジョン・ラボック」(Sir John Lubbock) 〔註〕(後の「アヴェブリー」卿 Lord Avebury) は其の王立統計協會 (Royal Statistical Society) に於ける講演中、倫敦の顧客が同氏の銀行の勘定口に支拂へる一九、〇〇〇、〇〇〇鎊を分類して曰く、

小切手及手形	一八、三九五、〇〇〇( 九七%)
英蘭銀行券	四〇八、〇〇〇( 二%)
地方銀行券	七九、〇〇〇( 〇・四%)

鑄貨

一一八、〇〇〇( 〇・六%)

合計

一九、〇〇〇、〇〇〇( 一〇〇%)

〔註〕 On the "Country Clearings," in Jour. Stat. Soc., XXVIII. 361 et seqq. (September, 1865).

而して右の數字は『能く倫敦の商業取引中に於ける銀行券及鑄貨の使用と小切手及手形の使用との比率』を示すものであると著書は言つて居る。〔註〕

〔註〕 Lubbock, 363. Cf. Jevons, Money, etc.. 285—287.

右の測定が行はれて以來、合衆國に於て本問題に關する種々なる調査が行はれたが、吾人に特に關係があるのは寧ろこの後者である。其の數字は大部分大藏省銀行監督局の輯集したものである。而して一八九六年度大藏大臣報告は同年以前に爲されたる一切の調査の摘要を收めて居るのであるが、次表は一八九四年度を除き右一切の調査を要約したものである。〔註〕

〔註〕 一八九四年度調査の結果は、數種の小賣商人の預金に限られて居つた、他の調査の數字と比較することが出来ないから、之を表に收めなかつたのである。

列記せる日附に於ける合衆國々立銀行の受入金中貨幣及小切手の百分比〔註〕

受入金ノ性質	1871		1881		1890		1892
	五十二行 國立銀行 %	六月卅日 國立銀行 %	九月十七日 國立銀行 %	七月一日 國立銀行 %	九月十七日 國立銀行 %	九月十五日 國立銀行 %	
金貨.....		0.65	1.38	0.89	1.13	0.88	
銀貨.....		0.16	0.17	0.32	0.43	0.41	
紙幣.....		4.06	4.36	6.29	7.40	8.10	
手形交換所金券.....	12.30	3.36	2.24	1.04	0.74	0.81	
貨幣總額.....		8.23	8.15	8.54	9.70	10.20	
小切手及送金爲替等.....				44.90	51.58	46.79	
手形交換所=於ケル交換 差.....				46.06	38.68	42.83	
代用物總額.....	87.7	91.77	91.85	.50	.04	0.18	
				91.46	90.30	89.80	

【註】 Report of the Secretary of the Treasury, 1896, 458, 459. Cf. Fisher, Money and Credit Paper in the Modern Market, in Jour. Pol. Econ., III, 393—398 (September, 1895).

更に一八九六年の調査は以前に行はれた調査に比し遙に廣汎に亘るものである。其の調査の性質は、之が起案及び實施を監督したる「ダヴィッド、キンレイ」(David Kinley)【註】の左の説明が最も能く述べて居る。

………著者が作製して大藏省銀行監督官が吾國金融機關に廻付した問合せ狀は昨年(一八九六年)七月一日に最も近き決算日に於ける小賣業者、卸賣業者及び其の他一切の預金者が爲したる預金を其の各自に付き金貨、銀貨、紙幣、並に小切手及送金爲替等に分類して示さんことを求めたのである。右の内、小切手及び送金爲替等は

支拂の爲に使用される一切の種類信用證券を包含するものとした。該問合せ狀は亦右の日に於ける預金中小切手の割合が平均的なるものなりや、若し代表的なるものに非ずとせば其の平均額との見積り差額如何、其の銀行が存する地方に於て賃金は普通小切手にて支拂はるるものなりや、及び賃金期間の長さ如何を示さんことを求めた。而して同問合せ狀は銀行監督官より國立銀行、州立及個人銀行、貯蓄銀行並に貸付及信託會社を包含する一切の金融機關に送付せられたのである。

【註】 Credit Instruments in Business Transactions, in Jour. Pol. Econ., V, 158 et seqq. (March, 1897).

右の如くにして約五、七五〇通の報告があつたが、其の内用ひ得るものは五、五三〇通であつた。此の調査の結果を簡単に要約したるものが即ち次表である。

一八九六年七月一日に最も近き決算日に決ける各種銀行預金中貨幣及小切手の額  
及其の割合

預金ノ種類	国立銀行 (三四七四行)	其ノ他ノ銀行 (二〇五六行)	銀行總計 (五五三〇行)
預金總額 .....	,000 250,408	,000 52,419	,000 302,936
卸賣預金總額 .....	56,450	6,634	63,088
卸賣預金中貨幣ノ額 .....	2,474	474	2,949
卸賣預金中小切手ノ額 .....	53,976	6,160	60,140
小賣預金總額 .....	20,814	5,720	26,537
小賣預金中貨幣ノ額 .....	6,678	1,853	8,531
小賣預金中小切手ノ額 .....	14,136	3,867	18,006

其ノ他ノ預金總額 .....	169,511	35,457	205,027
其ノ他ノ預金中貨幣ノ額 .....	7,094	2,851	9,947
其ノ他ノ預金中小切手ノ額 .....	162,417	32,606	195,081
預金總額中貨幣ノ百分比 .....	6.5	11.9	7.4
預金總額中小切手ノ百分比 .....	93.4	88.1	92.5
卸賣預金中貨幣ノ百分比 .....	4.4	7.2	4.7
卸賣預金中小切手ノ百分比 .....	95.6	92.8	95.3
小賣預金中貨幣ノ百分比 .....	32.1	32.4	32.3
小賣預金中小切手ノ百分比 .....	67.9	67.6	67.4
其ノ他ノ預金中貨幣ノ百分比 .....	4.1	8.1	4.7
其ノ他ノ預金中小切手ノ百分比 .....	95.8	91.9	95.1

我米國に於て實際商業取引に用ひらるる小切手及貨幣の相對比を測定せんとせばそは右に述べたるが如き數字を基礎としなければならぬ。固より此等の表が直接に示す所は單に或る特殊なる關係に移動する媒介物に止るのであつて、即ち一八九六年の調査に據れ

ば、小賣業者、卸賣業者、及び其の一切の者が一切の種類の銀行に預金する媒介物に限られ、一八九四年の調査に據れば、或る數種の小賣業者に依つて預金せらるるものであり、又夫れ以前の調査に據れば、銀行の勘定口に拂ひ込まるる受入金の總額である。故に吾人の目的を完成せんが爲には銀行の受入金と關係無き取引を推定附加しなければならぬ。此の方法は實際不確實なものであつて、極めて概算的な近似値しか豫期することは出来ぬ。

上掲の表に據れば、各種預金中信用證券を以てする割合は卸賣商人の預金に付ては九五・三パーセント、小賣商人の預金に付ては六七・四パーセント、其他一切の預金に付ては九五・一パーセントである。此の中卸賣取引に付ての百分比は吾米國全體に付て代表的なものであること「キンレイ」の信する所であるから、茲には何等の修正を要しない。然し小賣取引に付ての百分比は氏は之を以下の主たる理由により代表的なるものならずとして居る。「註」

右の中には商人が既に換價した「支拂濟小切手」(pay checks)、普通の取

引にて受取られた信用證券、地代、年金小切手、利札、他の人の爲め又は團體の爲めに保管する資金等の如き普通の商業取引以外の場合に受け取られたる若干信用證券、及び普通の信用期間を越ゆる購買に對して支拂つた小切手を包含して居る、……更に吾國預金總額は毎日小賣購買の爲め恐らく費せらるる額より多いからである。

【註】 Jour. Pol. Econ., V. 165.

右の如き誤差の原因を酌量せば、小賣取引中信用證券によりて行はるる百分比としては五五%が實際上正確なものと「キンレイ」は結論を下して居る。「註」

【註】 Jour. Pol. Econ., V. 167.

更に報告書は〔註〕、第三種の預金者は「其の内容極めて雑である」と言つて居る。蓋、之には商業取引を爲さざる團體及個人、竝に彼の「我國投機取引の大部分を占むる勘定」の一切を包含して居るからである。更に此の種の預金を示す數字は重複して計算した誤差を修正しなくてはならぬ。

〔註〕 Report, 483.

……………一銀行宛の小切手にして小賣商人が自己の取引銀行に預金したものは小賣預金中に數へられて居る。更に之を受取つた銀行が振宛銀行に取付けると、今度は小賣預金中に再び數へ込まれることは無いけれども、「其他一切」の種類の預金に數へらる。卸賣預金中の小切手も亦同様である。……………手形交換所を有せざる地方に於ては、之が預入れられた銀行以外の銀行に振宛てられた小切手は其日に交換せ

られ且其受入銀行に預金とせられる。故に受入總額にては、此處は總て二度數へられるのである。〔註〕

〔註〕 Kinley, in Jour. Pol. Econ., V. 162, 163.

斯くの如くして「キンレイ」は報告せられたる數字に齟齬ある點を考慮し、且つ各種の預金を其の相對値に従つて評量したる上、結論して曰く、「一切の種類の商業取引中信用證券に依りて爲さるる取引額の正しい見積額は七五「パーセント」である」。〔註一〕而して氏は此の百分比を信用證券に依て爲さるる取引額の『確實なる最低限度』(Sure minimum)として居る。而して余は之に勝るべき調査無きが故に、此數字を以て本研究の亘る三十箇年間信用證券に依つて爲されたる我國商業取引の割合を示す數字として承認しようと思ふ。然し乍ら余は之を『確實なる最低限度』とするよりは寧ろ『妥當なる最大限度』(Fair maxi-

num)たるものと考ふる者であることを陳べて、多少右の余の承認を制限せんとする者である。〔註二〕

〔註一〕 Ib, 172; cf. also Kinley, Money, 44, 108—114.

〔註二〕 余の考ふる所に據れば、「キンレイ」は現金支拂が比較的大なることを示す「報告書」中の資料を種々なる點に於て少なく見積り過ぎて居る。例之賃金支拂に於ける現金及び小切手の相對値に關する「報告書」の結論は、「貴行の地方に於ては賃金を小切手を以て支拂ふこと一般の習慣なりや」との質問に對する三、六〇〇有餘行の銀行の回答を各州及屬領に依つて要約せられたる表(四九三頁)を基礎とするものである。而して同表は全國に付て右の質問を肯定した回答と之を否定した回答との比を一・九六對一として居る。「報告書」は同表に關して述べて曰く、(四九二頁)「右の如くにして得られたる割合は固より概括的なものたるに止まるのではあるけれども、而かも公

衆の略々賃金支拂の爲め小切手を使用する割合を明にするに足る」。然し乍ら同表が本問題に關する資料として不適當なることは其の『習慣』(Customary)なる語の意義曖昧なる爲め(即ち此言葉は a custom の意義にも the custom の意義にも解釋し得る)質問の形式が誤解を生ずること、竝に同表中に於ては小なる州も大なる州と等しき價値を與へられたることを考ふれば、明なるのである。例へば「オクラホマ」は全國の平均數に於て「ニューヨーク」と等しき評量價値を與へられて居る。而して「カンサス」、「ネブラスカ」、「ウター」、「コロラド」、「ウオーミング」、「オクラホマ」、「ニューメキシコ」、及び「インディアン、テリトリー」の回答は小切手拂五六に對し現金拂八の比を示し、合衆國に於ける其他の一切の州は小切手拂四〇・三五對現金拂四一の比を示し、而して「ニューヨーク」、「ペンシルヴァニア」、「マサチュセッツ」、「ニュージャージー」、「コンネクティカット」及び「ロード」島は小切手拂一・四三に對し現金拂六の比を示したのである。



現金拂を少なく見積り過ぎた今一の點は小賣商人の受入金に付て爲された調査に關するものである。銀行の受入金は必然的に商業取引に於ける小切手の相對値を過大ならしむるものなりとの屢々繰返される主張の正否を檢せんが爲め、銀行監督官は一八九四年度調査に於て直接小賣取引から資料を得んとしたのである。即ち用紙を我國各所の種々なる小賣商人に配付し、一定期間中其の受入總額中現金及び小切手の百分比を示すべく之に書き入れんことを求めた。其の回答の中若干を要約したものが一八九六年度報告(四七九—四八二頁)に收められて居る。然るに此の數字に據つて見るに、小賣商業に於て小切手が廣く用ひらるるとの結論が強く反駁されたのである。此等の小賣商人の受入金中小切手の割合が銀行預金より觀察せる全國小賣商業に付ての平均數に達するものは一もなかつた。「イオワ」市に在る小賣商店の割合は小切手一四「パーセント」であり、「イオワ」州「ディヴンポート」に於ては小切手一五「パーセント」である、然るに報告書(四八〇頁)には、一八九六年度調査に於て小賣預金中小切手の平

均百分比は「イオワ」市の三銀行に付て七四「パーセント」であり、「ディヴンポート」六銀行に付ては六四「パーセント」であり、又イオワ州全體に付ては六〇・七「パーセント」なりとして居る。小賣商業に於ける小切手及現金の相對比を求むるには此の方法の方が遙に利益なるにも拘らず、監督官報告書は餘りに斯くの如き大事實を輕視するものに非ざるか。

今一つ述べべき點は、一八九六年度調査に對する回答は七月一日に最も近き決算日に於て作製せらるべきものなりしこと之である。然るに、他の如何なる日より月の朔日は小切手の百分比が最も大きい日であつて、而かも七月一日に於て特に然りである。何となれば七月一日は新らしき四半年期並に新らしき半年期の最初の日であり、且つ多數の商店に於て新會計年度の最初の日である。而して此の抗議に對する銀行監督官報告書の辯解は尙當なりとは思はれないのである。

## 第四章 貨幣流通速度

貨幣が流通する速度は價格水準を決定するに當つて貨幣流通額と全然等しく重要な要素である。〔註一〕「ウォーカー」の言を以てすれば〔註二〕「貨幣に對する需要及貨幣の供給は各々『二次數』(A quantity of two dimensions)であり、又古人の用ひた例を以て示せば『一定の機械を推進するに要する水量は其の流速に反比例する』のである。

〔註一〕 上掲一〇—二五。

〔註二〕 Money, Trade, etc., 40. Cf. Locke, Works, V. 22.

然し乍ら貨幣移動率が一般價格水準を決定する重大なる一動因なることを知ることと、

其の率を數字的に測定することは全く別事である。一八七五年、前世紀に於ける最も明なる貨幣論者の一人が記する所に曰く、〔註〕

……余は未だ嘗て如何なる國に於ても貨幣の平均流通速度を測定せんとする企ありしことを聞いたことも無く、又此の速度を調査すべき方法に付ても逆比例に依つて求むる方法以外には全然考ふることを得ない。今行れたる取引額と之に用ひられた通貨の數量を知つたとすれば、割算に依つて通貨の移動した平均度數を知り得るであらう。然し乍ら……其の既知數を得べき資料が極めて貧弱なるのである。

〔註〕 Jevons, Money, etc., 336.

更に之より廿五年後「ビエール、ド、エサール」氏 (Pierre de Essars) 氏は同一の問題に就て論じて曰く、〔註〕「貨幣總額の移動速度に付ては正貨に關しても亦紙幣、信用證券、交

互計算の形態に於ても、現在の統計の状態に於ては、何物をも知るに由無し。』と。

【註】 La Vitesse de la Circulation de la Monnaie, in Journal de la Société de Statistique de Paris, XXXVI. 143 (April, 1895).

流通媒介物と一般價格水準との間に存する關係の歸納的研究は、貨幣移動速度（公式中 R）を測定すること無くしては、不完全たるを免れぬ。斯くの如く此の速度の調査が極めて緊要なるが故に、右に掲げた「ゼヴォンス」の主張せる方法に準據して爲した以下の測定を提供することとする。然し其の測定の基礎たる資料は甚だ不確實なものであつて、『全く無きには勝る』と言ふ程の價値しか無いものである。

既に吾人は概算的に貨幣流通額【註一】及び我國取引中貨幣及小切手を媒介としたる割合【註二】を確めたから、今吾人の求めんとするのは「ゼヴォンス」の主張した方法に従へ

ば、我國商業取引中小切手取引の年總額如何の問題に答ふことである。毎年我國手形交換所を通過する小切手の額に關しては略々完全に調べたものが多いのであるけれども、此等のもは小切手を媒介として取引された實際商業取引額を示すものではない。

【註一】 前掲「貨幣流通額」表。

【註二】 前掲二〇七。

一八九六年度の調査は、同年七月一日に最も近き決算日に於て、當時我國銀行總數殆んど一三、〇〇〇行中五、五三〇行の預金を示して居る。【註一】今當日に於ける小切手取引の總額を求めんが爲めには、銀行監督官の問合せ狀に回答を與へざりし銀行の預金を何等かの方法で測定することが必要である。一八九六年度銀行監督官報告は此の點に付ては全く適せざるものである。同報告書は『回答が得られなかつた銀行の預金に對しては如何なる見

積額を與ふべきか』の問題に答へんとした。〔註二〕然し乍ら實際に於ては單に小賣商人の預金に關してのみ此の問題に答へたに止まるのである。同報告書は、一八九六年の當時我國に約一三、〇〇〇行の銀行あり、而して之より得たる回答中實際に用ひられたもの五、五三〇行、之より準備市銀行を除外すれば残るもの五、〇〇五行であることを述べて居る。此の五、〇〇五行と言ふ數は準備市銀行を除外した銀行總數の略々四〇「パーセント」である。〔註三〕其の後の測定に際して「キンレイ」は述べて曰く、〔註四〕

……………人口一二、〇〇〇人又は夫れ以下の地に於ける銀行にして回答の請求に應じたものは三、四五〇行であつて、其の小賣預金平均額は約二、三七五弗であつた。今若し此の平均額を回答無き銀行に付ての平均額と見做すならば、選ばれたる當日に於ける無回答銀行の小賣預金總額は一七・八百萬弗となる。之を回答されし額（二六、五三七、〇〇〇弗〔註五〕）に加ふれば當日に於ける全國小賣商人の預金一切の總計額は  
大凡四四萬弗となる。

〔註一〕 前掲二〇〇—二〇四。

〔註二〕 Report, 477.

〔註三〕 報告書（四七七頁）は、五、〇〇五行は準備市以外の銀行總數の略々六〇％に當ると主張して居るが誤りである。

〔註四〕 Jour. Pol. Econ., V. 164.

〔註五〕 前掲二〇二。

右に述べたるが如く、銀行監督官報告には小賣商人の預金を除くその他、報告無かりし銀行の預金に付ては何等の測定が爲されて居ない。今若し無報告銀行の預金總額が報告せし銀行の預金總額と同率であり、且無報告銀行に於ける小賣商人預金見積額が報告せる銀行に於ける小賣商人預金の實際數と同率を保つものとするならば、一八九六年七月一日に最

も近き決算日に於ける一切の銀行の預金總額を示す數として大凡五〇六、〇〇〇、〇〇〇弗を得るのである。而して一八九六年度調査に據れば報告ありし預金總額の中九二・五「パーセント」は小切手である。「註一」若し右に見積つた預金總額に付ても亦之と同一の百分比であるとするならば、右の當日に於て預金せられた小切手總額は大凡四六八、〇〇〇、〇〇〇弗であつたことになる。更に此の日は一八九六年度の典型的な日（註二）であつたとし、且其の年の營業日數を三〇五日に見積るときは、同年度の小切手預金總額として一四三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗を得ることとなる。

〔註一〕 前掲二〇二。

〔註二〕 此等の數字が七月一日に最も近き決算日に付ての額であるといふ事實は、普通より其の額を多からしむる傾向ある（前掲二一一註）と共に、一八九六年度の七月一日は金融梗塞期の間であり、且つ當日は市俄古大會に於いて民主黨が銀自由主義を

其の綱領に加へしことに先つこと僅々數日なりし事實は、此の期の預金を異常に少からしむる傾向があつたのである。故に之より以上に證明する方法は無いからして、一方向の傾向は反對の方向の傾向を相濟するものとして、一八九六年七月一日に付ての右の數字は大凡同年の典型的なものであつたと恣に假定しても恐らく許されることと思ふ。

「ウィラード、フィッシャー」(Willard Fisher) は數年前二個の相異なる方法に依つて一八九一年度に於ける銀行の小切手受入總額を測定した〔註一〕。其方法の一は『手形交換所を實際通過せる信用證券の額から、手形交換所組合銀行及び其の他一切の銀行に受入れられる大凡の額を』推算する方法である、他の一つは既に述べた〔註二〕一八八一、一八九〇、一八九二年度銀行監督官の調査當日に於ける國立銀行受入高を基礎として一切の銀行の受入高を推算する方法である。第一の方法に據つて氏は一八九一年度に於ける一切の銀行の小

切手及送金爲替受入總額として一四二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗〔註三〕を得、第二の方法に依り一五八、九七六、〇〇〇、〇〇〇弗〔註四〕を得た。更に氏は結論して曰く、〔註五〕

……………斯くの如く二個の相獨立せる方法に依つて得られた結果の間には大體の一致を見た。兩者の差額一六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に付ては、固より夫れ自身としては小さな數ではないけれども、一〇「パーセント」のことであることから考ふれば、斯くの如き概算的な推算に於ては其の差額大いに驚くに足らない。然らば二個の額の平均、即ち一五〇、〇〇〇、〇〇〇弗は之れ以上信頼すべき資料無きが故に我國一切の銀行を通過せる信用總額の妥當なる近似値と看做すことを得るであらう。

〔註一〕 *Jour. Pol. Econ.*, III, 400 et seq. (September, 1895).

〔註二〕 前掲一九九。

〔註三〕 *Jour. Pol. Econ.*, III, 403.

〔註四〕 同上 404.

〔註五〕 *Loc. cit.*

此の「ワイラード、フィッシャー」の二個の測定及本書に於て既に述べた所の測定が概算的な性質のものであること、並に其の各自が獨立して且つ全く異なる材料〔註〕に依て爲されたることを考ふれば、其の結果が斯くも接近した一致を示して居ることは注目に値する。

〔註〕 「フィッシャー」の測定は一八九一年に就てであり、本書のは一八九六年に就てである。

概して一枚の小切手は一個の取引を完了したる後直に銀行に預金せらるるものである

が、屢々一枚の小切手にして其の預金せらるゝ以前に數度轉々して其の持主を變更し其の變更する毎に財産の交換を完了することがある。此の事は數年前廣く行はれた保證小切手に關して特に然りである〔註一〕。此の點を考へると我國銀行の小切手預金額は小切手を媒介として行はれた實際の商業取引額より可なり少く思はれるであらうけれども、一方銀行の小切手預金額の方が之に依つて爲さるる商業取引額より少くなる理由が存することを考へなければならぬ。一八九六年度銀行監督官調査に於ける『其の他一切の種類』の預金中には、其預金を『重複して數へる』ことが可なりあること、余が註に於て注意し置きたるが如くである。〔註二〕 加之、既に述べたるが如く〔註三〕、銀行が授受する小切手中には専ら銀行相互間又は銀行及手形交換所間の交換に便せんが爲めにのみ授受せらるゝに過ぎない小切手——其の譲渡たるや其の他の點に於ては毫も商業取引を示すものではない——が多數存在するのである。此の種の小切手の譲渡は一國銀行制度の一部分を爲すものであつて、其の存在の理由は信用交換制度其者に存するのである。〔註四〕而して以上列擧せる諸

種の條件は、其の或る者は一方向に働き、又或る者は反對の方向に働くものであるが、此等は總て計算不可能なるものであり且つ是れ以上證明する方法無きが故に、兩者は相互に打消されて〔註五〕、既に測定した〔註六〕銀行小切手預金額は該年度に於ける小切手の實際流通量と大凡な近似數であつて、即ち換言せば公式中  $C R_0$  は一八九六年度に付ては  $43,000,000,000$  弗に等しく、且つ  $R_0$  は一に等しきものと恣に假定しやうと思ふ。

〔註一〕 Cf. Dunbar, Theory and History of Banking, 65 note, and Willis, Credit Devices and the Quantity Theory, in Jour. Pol. Econ., IV. 303 (June, 1896).

〔註二〕 前掲二〇六。

〔註三〕 前掲一四五註。

〔註四〕 Cf. Cannon, Clearing Houses, chaps. vi—ix.

〔註五〕 『一年間に付ての銀行の小切手受入高は商業取引中小切手に依る交換額より遙に大なるものであらう。今債務者が「ダルス」に在る自己の取引銀行宛の小切手を振り出し、之を「マサチューセツ」州の「ウォータータウン」に在る債権者に送付するとせよ。其の小切手は「ウォータータウン」に在る銀行に預金せられ、夫れから「ボストン」の取引先、それから「ニューヨーク」に、それから市俄古に、それから「ダルス」に送られ、斯くの如くして五度銀行受取項として現はれるであらう。而かも其の爲す所は唯一回の財貨交換に過ぎない。故に信用取引總額を得んとせば、信用證券總額から信用證券が斯くの如き餘分の移動を経ただけ差引くことが必要である。然し乍ら他の一面に於て、一枚の小切手も之を一回以上交換の媒介物として用ひ得ること極めて容易なることを記憶しなければならぬ、而して此の事が實現せられる文け、信用證券流通額は信用取引額より少くなるのである。……然し、先に求めた見積總額に若干の増加を要せしむるのは唯小切手が債権者に譲渡され、其の債権者が之を銀

行に預け入ること無くして、更に他の者に譲渡する場合に限るのである。而して斯くの如き事が生ずる場合は其數決して尠くないけれども、小切手振出總數に比較しては到底大なるを得ないのである。余は、假令極めて大凡なる計算にしても、茲に示した増加額及控除額を之より計算すべき廣汎なる調査あるを知らぬ、兩者は相互に相濟するものとすること妥當なる推測であらう。 Willard Fisher, in Jour. Pol. Econ., III, 404, 405.

〔註六〕 前掲二一八。

右の如くにして、一八九六年度小切手取引總額を二四三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗とし、且我國取引總額中小切手を媒介とするものの割合を七五「パーセント」とするならば、一八九六年度我國取引總額は一九〇、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗となり、貨幣を媒介とする取引は四七、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗になることとなる。今「貨幣流通額」表〔註一〕に據れば、



一八九六年度貨幣流通總額は一、五五四、〇〇〇、〇〇〇弗を示し、銀行準備金を除けば一、〇二五、〇〇〇、〇〇〇弗である。此等の數字より計算すれば、貨幣移動率は貨幣流通總額に對しては三一となり、又銀行準備金を除ける流通額に對しては四七となる。〔註二〕

〔註一〕 前掲一九〇一—一九一。

〔註二〕 前掲一七七註、及一八六、一八七參照。

然し乍ら、此の事は一八九六年度に於て銀行準備金を除く貨幣の各片が總て四十七度其の持主を變更したことを意味するのではない。其の或者は之より遙に多く其の持主を變更し、又或者は全く其の持主を變更しないのである。恐らく比較的小なる呼稱價格の貨幣は比較的大なる呼稱價格のものより流通の速度大である。〔註一〕又右の率は年中否毎週平均して居るとの謂ではない。或時には其の交換活潑であり、又或時には緩慢である。〔註二〕

金融梗塞の場合には多額の貨幣が貯藏せられ〔註三〕、其の結果貨幣總體の平均移動速度を減少せしむるの傾向を有するし、反之商況活潑なる場合には遊金比較的少額にして其の移動率は速かになる。此の點に關して記憶すべきことは、後に至り余が論證する所であるが〔註四〕、不景氣の際、氣配が低弱なる場合には、信用取引は左迄自由に行はれず、爲めに餘分の負擔が貨幣流通量に加へられ茲に貯藏の傾向は阻止せらるべく、爲に正常なる貨幣移動率を維持し、否恐らく屢々之を突破するの傾向を有することはである。

〔註一〕 Cf. Newcomb, Political Economy, 340, 341.

〔註二〕 Cf. Walker, Money, 63, 418, and Kinley, Money, 101, 151—158, 363.

〔註三〕 例へば一八九三年乃至一八九四年並に一九〇七年の恐慌に於ける金の貯藏參考。後掲二八〇頁圖表「相對的流通量對一般物貨」參照。 Cf. Noyes, Thirty Years of American Finance, 190 et seqq.

〔註四〕 後掲二七〇—二七一頁「一覽表」、第一及第五欄中、一八八四年乃至一八八五年、一八九三年乃至一八九四年及び一九〇七年乃至一九〇八年の恐慌年度に於ける貨幣及び小切手流通量を示す數字を参照せよ。

貨幣移動速度に直接の關係を有する今唯一つの調査は數年前「イェール」大學 (Yale University) に於て行はれた調査であつて、「アーヴィング、フィッシャー」 (Irving Fisher) が之を説明して居る。〔註〕之に用ひられた方法は、或る特定の個人を通過する貨幣の速度を研究するのであつて、其の基礎とする所は、各個人に付ての流通速度は、或る單位とした期間中に於ける其の者の貨幣支出總額を、之と同期間中に於て彼れの手許に在た貨幣の平均額にて割つたものであると云ふことに在る。若し此の各個人に付ての率が充分なる人數に付て得られ、而して此等の速度を『此等の率の各々に加つた貨幣の額に従つて之を評量』したならば、社會全體としての貨幣流通速度を示す一般指數が得られる理である。『之に據

れば「イェール」大學學生中より得た百通の回答は一年に付ての平均速度四十五度を示し、一弗が一人の所有に止る平均時間は約八日と爲つた。〔註二〕

〔註一〕 The Role of Capital in Economic Theory, in Econ. Jour., VII. 520 (December, 1897).

〔註二〕 「ビェール、デ、エサール」氏は氏が「巴」里統計協會雜誌 (La Journal de la Société de Statistique de Paris XXXVI. 143—151, (April, 1895) に載せた著名なる論文に於て『貨幣流通速度』 (La Vitesse de la Circulation de la Monnaie) なる標題の下に、歐洲大陸諸國に於ける銀行預金の移動速度を論じた。氏の調査の原理は畧々上述「アーヴィング、フィッシャー」の述べた方法及本書の用ひた方法と同様である。即ち之に用ひられた方法は一年間に一國銀行を通過する資本移動總額を殘高平均額で割るのである。今銀行に預け入れられた預金總額を  $N$ 、銀行の爲したる支拂總額を  $M$ 、

残高平均額を S. 及び其の一ヶ年移動度数を V にて示せば氏の得たる公式は次の如くである。

$$VS = \frac{M+M_1}{2} \quad \text{即ち} \quad V = \frac{M+M_1}{2S}$$

「エサール」氏は此の公式を應用して、歐洲大陸の主要なる銀行に付き銀行預金の移動速度を計算した。不幸にして斯くの如き調査に用ひられた資料は英國及合衆國の銀行には役立たないのである。

「エサール」氏が計算した歐洲諸國の銀行預金移動率を示す數字は次の如くである。

年 度	佛 國 銀 行	獨 逸 銀 行	白 國 銀 行
1884	110	170	112
1885	107	165	102
1886	98	138	96

1887	115	128	112
1888	125	135	123
1889	113	157	153
1890	135	190	146
1891	138	170	141
1892	116	148	130
1893	120	165	118
1894	127	161	129

銀行預金は當然其の國の貨幣供給總額よりも遙に速に移動すべきものなることを知らねばならぬ。何となれば銀行預金は大部分資金を遊ばせて置くことに伴ふ損失に敏感なる積極的實業家の流動資本であるからである。

先に我國小切手流通總量(CR)として一四三・〇〇〇・〇〇〇・〇〇〇弗を見積つたのは、單に一八九六年度に付てである。故に本書の研究が跨る三十箇年間の毎年小切手流通量を

見積ることが必要である。斯くの如き測定は間接に求むるより他はない。何となれば此の點に關して何等直接の資料が存しないからである。

小切手流通量は凡の處一國手形交換總額の作用なりとすること妥當なるもの如である。而して一八九六年度銀行監督官報告は國立銀行全部の小切手受入高中手形交換所を通過せるものの百分比は一八九〇年七月一日、一八九〇年九月十七日、及一八九二年九月十五日に付て各々五〇・二「パーセント」、四二・八「パーセント」、及四七・七「パーセント」であつたことを示して居る。

一八八一年六月三十日、及九月十七日の調査は「ニューヨーク」國立銀行宛小切手中手形交換所を通過せるものの割合は各々七八・六四「パーセント」及び八七・七五「パーセント」なることを示して居る。又一八九〇年七月一日及九月十七日に付ての數字は七二「パーセント」及六五「パーセント」であり、一八九二年九月十五日に付ての數字は六九「パーセント」である。……………市俄古に於ては……………一八九〇年七月一

日、一八九〇年九月十七日及一八九二年九月十五日に付ての百分比は……………各々五七「パーセント」、四八「パーセント」、及び四五「パーセント」であつた、〔註〕

此等の各地に於ける相異なる日附に付ての手形交換所通過の百分比は、恐らく人の豫期するであらうが如くに接近したものではない。若し右の數字が日に付てではなくして年に付て示されたならば恐らく其の差異が少くなることは殆んど疑を容れない。然し乍ら假に日を異にするに従ひ、又年を異にするに従ひ、交換所を通過する小切手總額の割合は完全には一定せるものに非ず、且つ近年に於ては手形交換所を通過する割合は恐らく幾分増加せりとするも、猶ほ數年間の如き小期間に於ては大凡一定して居ることは證明せらるる所であり、且つ之に關する研究資料の現状の下に於ては銀行の手形交換こそ恐らく小切手流通量の調査に利用し得べき資料の中にて最も優れたるものである。

本章末に附せる「貨幣及小切手流通量」表を一覽せば、一八九六年度に於ける我國手形交換總額は四四〇億弗であることが分る。而して同年度に於ける小切手流通總量は吾人が既に一四三〇億弗と見積つたのであるから、一八九六年度に於ける手形交換所を通過したものの割合は三八「パーセント」となる。既に述べたが如く、「ウィラード、フィッシャー」は二つの相異なる方法に依り一八九一年度に於ける我國小切手取引總額を見積つた。「註」其の一の方法に依つて氏の見積つた額に據れば、手形交換所を通過せる割合は三四・四「パーセント」となり、他の一の方法に據れば三〇・七「パーセント」となり、兩者の平均は三二・五「パーセント」となるのである。此の一八九一年度の平均と一八九六年に付て得た三八「パーセント」との中數を採れば三五「パーセント」となるのであるが、吾人は之に勝る資料無きが故に、此の三五「パーセント」とを以て一八七九年より一九〇八年に至る期間中の各年度に於て我國小切手流通總量(CR)中手形交換所を通過せるものの割合と考へよう

と思ふ。

〔註〕 前掲二一九、二二一〇。

故に、次に掲げた表は、一八七九年乃至一九〇八年の三十箇年に於ける毎年の貨幣移動平均率〔註一〕は四七であること〔註二〕、及我國小切手流通總量中の三五「パーセント」が右の期間中の各年度に手形交換所を通過せることの假定を前提とするものである。之を價格公式  $P_s = \frac{MR + CR_c}{N + N_c}$  に代入せば次の如くとなる。

$$P_s = 47 \left( \frac{\text{銀行準備金を除ける貨幣流通總額}}{N + N_c} + \frac{100}{35} \left( \frac{\text{銀行手形}}{\text{交換額}} \right) \right)$$

之を基礎として次に掲げたる「貨幣及手形流通量」表中の數字を計算したのである。

# 貨幣及小切手流通量

(單位十億弗)

P. 236-237.

年度 毎年六月 三十日 = 終ル	I. 貨幣流通量 (公式中MR)		II. 手形交換額		III. 小切手流通 見積總量 公式中CRc	IV. 銀行準備金ノ 小切手流通總量 = 對スル比		V. 貨幣及手形流通 見積總量 (公式中MR+CRc)	
	金額	指數	金額	指數	金額	金額	指數	金額	指數
	1879	26.2	63	23.9	71	68	.318	82	94
1880	28.7	69	33.1	98	95	.300	77	121	91
1881	35.2	85	35.9	106	103	.286	74	138	101
1882	40.3	97	41.5	123	119	.241	62	159	116
1883	41.4	100	41.0	122	117	.274	71	158	115
1884	43.1	104	31.0	101	97	.331	85	140	102
1885	40.1	97	25.9	77	74	.560	144	114	83
1886	42.2	102	30.9	91	88	.426	110	130	95
1887	40.0	96	33.5	114	110	.394	102	150	109
1888	42.4	102	39.8	118	114	.389	100	156	114
1889	41.0	99	43.2	128	123	.410	106	164	120
1890	43.6	105	48.7	145	139	.344	89	183	134
1891	46.1	111	48.9	145	140	.344	89	186	136
1892	46.5	112	50.0	149	143	.392	101	189	138
1893	49.7	120	62.3	185	178	.304	78	228	166
1894	45.2	109	45.4	135	130	.514	132	175	128
1895	47.7	115	48.8	145	139	.443	114	187	136
1896	48.2	116	53.6	159	153	.346	89	201	147
1897	45.4	109	50.7	150	145	.419	108	190	139
1898	51.2	123	65.2	194	186	.350	90	237	173
1899	54.7	132	84.2	250	240	.295	76	295	215
1900	58.8	142	88.9	264	254	.287	74	313	228
1901	61.8	149	107	318	306	.261	67	368	269
1902	65.4	157	112	333	320	.257	66	385	281
1903	66.5	160	118	351	337	.251	65	403	294
1904	71.0	171	102	303	291	.303	78	362	264
1905	73.2	176	133	397	380	.262	67	453	330
1905	77.6	187	153	455	437	.231	59	515	375
1907	81.7	197	157	468	449	.241	62	531	387
1908	82.6	199	145	431	414	.312	80	497	362

〔註一〕 前掲二二五、二二六。  
〔註二〕 然し乍ら之を以て貨幣移動率は右の三十箇年中毎年同一であつたと言ふのではなく、吾人が此の移動率を見積るのに利用し得る唯一の資料は右の散らばつた數日に限られて居り、且つ之以上の資料無きが故に、今の處、一八九六年度に付て適用し得ることが判明した率を以て本書の研究が跨る全期間中を代表するものとするのが最も安全なる假定なるべしとの意味である。

貨幣及小切手流通量

(単位：千圓)

年次	銀行準備金總額		貨幣流通額		手形交換額	
	1913	1914	1913	1914	1913	1914
1913	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1914	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1915	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1916	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1917	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1918	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1919	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1920	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1921	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1922	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1923	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1924	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1925	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1926	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1927	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1928	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1929	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1930	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1931	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1932	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1933	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1934	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1935	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1936	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1937	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1938	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1939	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1940	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1941	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1942	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1943	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1944	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1945	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1946	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1947	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1948	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1949	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1950	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

「貨幣及小切手流通量」表

貨幣流通量を示す數字(第一欄)は銀行準備金總額(「貨幣流通額」表第四欄参照)を除く毎年貨幣流通額に四七倍せるものである。銀行手形交換額を示す數字は其の各會計年度に付、「商業及金融時報」(Commercial and Financial Chronicle)、「合衆國商業及金融毎月要覽」(Monthly Summary of Commerce and Finance of the United States)及び「金融評論」(Financial Review)の與ふる毎三ヶ月及毎月にての數字より計算せるものである。「ニューヨーク」株式取引所に於ける取引に付ての手形交換は一八九二年五月十七日「ニュー、ヨーク」手形交換所より分離せられて、同日以來「ニュー、ヨーク」株式取引手形交換所(New York Stock Exchange Clearing House)に依つて爲さることとなつた。然るに不幸にして此の方の手形交換額に付て利用すべき何等満足なる記録が無い。

「商業及金融時報」(LIV, 742, May 7, 1892)の見積に據れば、此の種の手形交換額は平均、報告せられし株式取引所賣買の市場価値の二・五倍に上るとして居る。此の見積を一八七九年より一八九二年五月十七日に至る我國手形交換額を計算するに付て採用した。故に表に於ける手形交換額は株式取引所手形交換額を包含しないのである。小切手流通見積總量(第三欄)は我國小切手流通額中手形交換額を通過する割合を三五「パーセント」とした假定に基くものである。故に小切手流通量の指數は手形交換額の指數と同一である。銀行準備金の小切手流通總量に對する比(第四欄)は第三欄に收められた數字と「貨幣流通額表」第四欄に收められた數字とを基礎としたものである。第五欄は第一欄と第三欄とを加へたものである。最後に、本表中の指數は總て一八八三、一八八四、及一八八五會計年度平均數を一〇〇として計算したものである。

## 第五章 氣配

氣配 (Business confidence) の變動が交換の媒介物に及ぼす影響は既に第一篇に於て指摘した所である〔註〕。吾人が次に爲すべきことは、一八七九年より一九〇八年に至る間の氣配の波動を概算的に測定することである。然るに氣配なるものは其の實體極めて曖昧にして摸索し難き爲め、之を直接測定することは不可能であるが、之を明にするべき或る可なり確實にして且具體的なる手段が存する。此等の手段となるべきものは或る程度迄は測定せられ得るのであつて、此の測定せられた手段を通じて氣配の波動其の者に關する何等かの觀念を得ることが出来るのである。

〔註〕 前掲一六四—一七一。



恐らく氣配を検するに最も善きものは商業破産(Commercial failures)の研究に在るであらう。景氣が善くて各種の商業取引が活氣を有するときには、破産は比較的尠く、又普通少額に止まる。然し乍ら今收穫不作の豫想が生じ、國際紛争が切迫し、有力なる金融機關が支拂不能となり、政府の税制又は貨幣改革の豫想が生じ、又は其の他業務縮少及清算を豫想せしむべき幾百の原因中の一が生じたとせよ。一度金融梗塞にして確實に現出するや否や、之が結果は盲目的に又は充分なる金融上の支持無くして業務を行ひ居りし多數商店の破産である。凡そ商業破産は傳染性を有する〔註〕。其の破産は商業及金融界に於ける梗塞状態の結果であり且つ原因であつて、商業破産の件數及其の負債額は大凡商況沈滞期の長短をトせしむるものである。

〔註〕 前掲一六五—一六七、参照。

商務及勞働省(Department of Commerce and Labor)の發行に係る「商業及金融毎月要覽」(Monthly Summary of Commerce and Finance)は毎年を四季に分けて「ダン評論(Dun's Review)の計算に依る合衆國に於ける商業破産の件數及其の平均負債額を掲げて居る。其の數字に基いて、余は一八七九年より一九〇八年に至る各會計年度に付て、營業中の商店總數に對する破産件數の割合〔註〕及び破産せる商店の負債平均額を算出した。大商店の破産は小商店の破産よりも氣配を沈滞せしむること遙かに大なるが故に、氣配を検するに當つては、營業中の商店と破産件數の割合を示す指數と、破産せる商店の平均負債額を示す指數とを連結して考ふる方が、兩項を別々にして考ふるよりは安全である。而して此のことを具體化したるものが即ち本章末に附せる表中『弱氣配』(Business Distrust)及『(好)氣配』(Business Confidence)を示す指數(第七及八欄)である。

〔註〕 營業中の商店總數を示す數字は曆年度に依るものである。故に營業中の商店總數と破産件數との割合を計算するに當つては、會計年度に依る營業中の商店數と之に該當する曆年度に於けるものと同一であることを假定しなければならなかつた。然し引用した諸表を見たならば、此の假定に伴ふ誤差は恐らく僅少であることが分るであらう。蓋、前半年期と後半年期に付ての、營業中の商店數の差は比較的少いからである。

更に氣配を検すべき補助手段として、株式市場の取引状態及び銀行破産に關する數種の統計を本表中に加へた。其中株式取引額を示す數字に付ては何等説明を要しない。概して、氣配が強いときには投機取引は大であり、又氣配が弱いときには小なることは世間周知の事實である。然し乍ら此等の數字から得らるる結論は株式取引額の正規的な大いさを考慮するものでないから、此種の資料は或る一定期間に於ける氣配の移動に關しては信頼

指標では無いけれども、逐年に於ける其の移動を示すべき指標としては確かに價值がある。而して株式取引額が氣配の強弱に伴つて變動するの傾向があると全く等しく、株式の價格も原則として氣配が強いときには騰貴し又弱いときには低落するのである。此の株式の價格を示す數字は今言つた取引總額を示す數字に對して、株式市場に於ける取引に普通現れる増加に因る誤差を大いに排除するの利益を與へるのである。

表中「株式市場資料」の最後の欄（第三欄）は「ニューヨーク」株式取引所に於ける「コール」割引歩合の毎年の平均を示すものである。之を表に收めた理由は、此の歩合は氣配の移動を示すべき貴重なる指標なりと一般に信ぜらるるからである。然し乍ら此の資料が果して大なる價值あるものなりや否やは之を考へて見る必要がある。「コール」歩合は現金（Ready money）の需要供給に從つて變動し、從つて供給が少いか若しくは需要が大なるときは其の歩合高く、又供給が多いか若くば需要が少ないときには、其の歩合が下るものである。然し乍ら、「コール、マネー」に對する需要大なることは、或る場合には弱氣配の

産		
VI.	VII.	VIII.
平均額	弱氣配 指數 (V及 VIノ 平均)	[好] 氣配指 數(VII ノ逆數)
指數		
105	108	92
72	67	133
81	70	130
72	71	129
85	84	116
128	115	85
88	101	99
59	75	125
70	79	121
102	94	106
61	79	121
78	83	117
105	99	101
77	81	119
110	98	102
98	114	86
72	88	112
75	92	108
83	106	94
55	88	112
57	70	130
71	74	126
57	71	129
61	72	128
63	71	129
75	82	118
56	69	131
56	62	138
67	68	132
97	96	104

徴標にして清算を示すことあり、又或る場合には好氣配の徴標にして新投資の好機なるを示すこともある。一方、「コール、マネー」の供給少きことは、或る場合には弱氣配の徴標たり、銀行準備金の増加に對する需要を示し又は當時の取引額に對して貨幣の稀少なるを示すことあり、又或る場合には氣配強くして「コール」市場其者又は期限付市場に投資するに好機なるを示すこともある。此等の理由に依り、同一の「コール」割引歩合も屢々正反對なる氣配の状態を伴ふことがある。

吾人の研究が跨る期間中に於ける氣配の移動は次に掲げたる「氣配」表が示す所である。同表中第七欄は氣配の反對のもの、又は適當なる名稱無き爲め余が「弱氣配」と稱したるものゝ指數を示す。氣配の指數(第八欄)は右弱氣配を示す指數の正反對である。以後本書の研究に於て氣配の移動は或る場合には氣配其のものゝ指數に依つて測定し、又或る場合には其逆指數即ち弱氣配の指數によつて測定するのであつて、此の二組の指數中其時研究すべき移動と一層容易に比較し得るものを探ることとする。故に二組の指數は同一の現象

# 配 氣

P. 244-245.

年 度 毎年六月 三十日ニ 終ル	株 式 市 場 資 料				商 業 破 産							
	I.		II.	III.	IV.	V.			VI.		VII.	VIII.
	「ニューヨーク」株 式取引所ニ於ケル 報告セラレシ 株ノ買入ノ 市場價值		主要ナル 二十乃至 二十八箇 株ノ價格 ノ指數	「ニュー ヨーク」 ニ於ケル 「コール」 貸付ノ毎 年平均利 子歩合	營業中ノ 商店數	破 産 商 店			負 債 平 均 額		弱氣配 指數 (V及 VIノ 平均)	[好] 氣配指 數(VII ノ逆數)
	金 額 000,000	指 數	指 數	數 ,000	數	百分比	指 數	金 額	指 數	指 數	指 數	
1879	2,679	44	76	3.58	702	8,711	1.20	111	18,749	105	108	92
1880	5,460	91	108	13.47	747	5,097	0.68	63	12,803	72	67	133
1881	8,783	146	127	4.80	782	5,104	0.65	60	14,467	81	70	130
1882	7,502	125	128	7.91	822	6,313	0.76	70	12,799	72	71	129
1883	6,663	111	121	5.90	864	7,778	0.90	83	15,062	85	84	116
1884	6,695	111	104	2.57	905	10,057	1.11	103	22,976	128	115	85
1885	4,665	77	79	2.24	920	11,462	1.24	115	15,414	88	101	99
1886	6,355	106	91	2.26	970	9,954	0.98	91	10,469	59	75	125
1887	5,271	88	108	5.04	994	9,590	0.96	89	12,445	70	79	121
1888	3,659	61	106	3.56	1,047	9,911	0.94	87	18,215	102	94	106
1889	4,048	67	108	2.78	1,051	11,093	1.05	97	10,956	61	79	121
1890	4,114	68	114	6.26	1,111	10,664	0.96	88	13,904	78	83	117
1891	3,529	58	105	4.78	1,143	11,596	1.00	93	18,709	105	99	101
1892	4,796	79	110	2.61	1,173	11,702	0.99	92	13,649	77	81	119
1893	5,049	84	111	4.41	1,193	11,252	0.94	87	19,609	110	98	102
1894	3,232	54	103	2.57	1,114	15,879	1.42	131	17,547	98	114	86
1895	3,321	55	90	1.34	1,209	13,534	1.12	104	12,829	72	88	112
1896	3,632	60	99	2.75	1,152	13,566	1.18	109	13,432	75	92	108
1897	3,745	56	91	3.27	1,059	14,888	1.39	129	14,709	83	106	94
1898	7,185	119	106	2.04	1,006	13,248	1.31	121	9,819	55	88	112
1899	12,162	202	122	3.03	1,148	10,321	0.90	83	10,201	57	70	130
1900	10,199	168	135	7.47	1,174	9,816	0.84	78	12,588	71	74	126
1901	18,165	303	152	3.30	1,219	11,201	0.92	85	10,138	57	71	129
1902	13,389	223	186	4.00	1,253	11,408	0.91	84	10,880	61	72	128
1903	13,937	232	190	5.01	1,281	11,078	0.86	80	11,184	63	71	129
1904	7,659	128	156	2.58	1,320	12,655	0.96	89	13,286	75	82	118
1905	20,259	337	189	2.84	1,357	12,195	0.90	83	9,922	56	69	131
1906	22,428	373	212	6.01	1,393	10,922	0.73	68	9,992	56	62	138
1907	20,424	340	200	5.56	1,418	10,677	0.75	69	11,859	67	68	132
1908	11,263	187	153	6.15	1,448	14,827	1.00	94	17,330	97	96	104

徴標にして清算を示すことあり、又或る場合には好氣配の徴標にして新投資の好機なるを  
 示すこともある。一方、「コール、マネー」の供給少きことは、或る場合には弱氣配の徴標  
 たり、銀行準備金の増加に對する需要を示し又は當時の取引額に對して貨幣の稀少なるを  
 示すことあり、又或る場合には氣配強くして「コール」市場其者又は期限付市場に投資す  
 るに好機なるを示すこともある。此等の理由に依り、同一の「コール」割引歩合も屢々正  
 反對なる氣配の状態を伴ふことがある。  
 吾人の研究が跨る期間中に於ける氣配の移動は次に掲げたる「氣配」表が示す所である。  
 同表中第七欄は氣配の反對のもの、又は適當なる名稱無き爲め余が「弱氣配」と稱したる  
 もの、指數を示す。氣配の指數(第八欄)は右弱氣配を示す指數の正反對である。以後本書  
 の研究に於て氣配の移動は或る場合には氣配其のもの指數に依つて測定し、又或る場合  
 には其逆指數即ち弱氣配の指數によつて測定するのであつて、此の二組の指數中其時研究  
 すべき移動と一層容易に比較し得るものを探ることとする。故に二組の指數は同一の現象

III	IV	V	VI	VII
10	100	100	100	100
20	200	200	200	200
30	300	300	300	300
40	400	400	400	400
50	500	500	500	500
60	600	600	600	600
70	700	700	700	700
80	800	800	800	800
90	900	900	900	900
100	1000	1000	1000	1000
110	1100	1100	1100	1100
120	1200	1200	1200	1200
130	1300	1300	1300	1300
140	1400	1400	1400	1400
150	1500	1500	1500	1500
160	1600	1600	1600	1600
170	1700	1700	1700	1700
180	1800	1800	1800	1800
190	1900	1900	1900	1900
200	2000	2000	2000	2000

を反對の側面から觀たるものであるといふことを記憶することを要する。  
 是以上表に付て説明を加へることは商業取引額及物價の移動を測定するとき迄之を待つ  
 こととする。次章に於て余は商業取引額即ち公式中  $Z + \Sigma$  を測定するであらう。

### 「氣配」表の説明

「ニューヨーク」株式取引所に於ける報告せられたる株式賣買の市場價値を示す數字（第一欄）は「商業及金融時報」が毎曆年度の初に示す毎三箇月及毎月に付ての數字より計算せるものである。主要なる二十乃至二十八箇株の價格を示す指數（第二欄）は次の如くにして得たものである。即一八七九年乃至一九〇一年の期間に付ては「産業委員會報告」（Industrial Commission's Report, XIX, 1102, 1103）中の表に收められた二十八箇株の毎年平均價格を其の各株の價格に付て之を單純なる指數と爲し、更に此等の諸指數を結合して單純なる一般平均數としたのである。又一九〇二年乃至一九〇八年に付ての數字は「ウォール、ストリート、ジャーナル」誌に示された二十種の主要鐵道株の毎月平均指數を各會計年度の平均數としたものに、一九〇一年の兩數字の比たる一・六三六を乗じて前の期間の數字との權衡を保たしめたものである。一八七九年より一九〇一年に至る期間に於ける割引歩合を示す數字（第三欄）は「ジョン、アール、コムモンズ」（John R. Commons）の

作製に係るものであつて「産業委員會報告」（XIX, 727）より採録せるものである。其の一九〇二年より一九〇八年に至る期間に付ての數字は毎週に付ての歩合の平均數を示すものであつて、其の基礎とする所は「ファイナンシャル、レビュー」誌に收められたる諸表である。商業破産を示す數字（第五欄及六欄）は一八七九年乃至一九〇四年に付ては「合衆國商業及金融毎月要覽」に收められた毎四ヶ月に付ての數字から會計年度に依て計算せるものである。又一九〇五年乃至一九〇八年に付ては會計年度に従ひ「ダンス、レビュー」Oct. 3, 1908; Jan. 9, 1909）より採つたものである。弱氣配を示す指數は各該當する毎年度の破産商店數の割合を示す指數（第五欄）と破産商店の平均負債額を示す指數との單純平均數である（第六欄）。「好」氣配を示す指數は單に右の指數の逆數であつて、即ち數學的に言へば、弱氣配指數（第七欄）の『反射數』（Mirrored reflection）である。最後に同表中の指數は總て一八八三、一八八四、及一八八五年度均數を一〇〇とせるものである。

## 第六章 商業取引額

今迄の統計的研究にては、殆んど全く流通媒介物の供給に付て測定することに限られて居た。即ち吾人は貨幣流通額(N)〔註一〕、貨幣平均移動率(R)〔註二〕、小切手流通額(C)〔註三〕及び小切手平均移動率(Rc)〔註四〕を測定したのである。然るに交換の媒介物と一般物價との關係を研究するに當つて、今一つ之と同様に重要なものは流通媒介物に對する需要である。公式

$$P_s = \frac{MR + CRc(\text{註五})}{N + Nc}$$

に付て云へば、流通媒介物に對する需要は  $P_s(N + Nc)$  即ち一般平均價格を賣買總數に乗じたる積によつて示されるのである。〔註六〕然るに  $P_s(N + Nc)$  の各項を何等か直接なる方法に依つて計算することは明に不可能である。故に氣配の移動を研究せし場合に於ける

が如く、間接なる計算方法に頼らなければならぬ。右の内物價に關しては次章に於て研究すべく、本章に於ては貨幣及小切手に對する需要中  $N + Nc$  に依て示さるる諸動因即ち實現されたる賣買數に付て考究することとする。

〔註一〕 前掲「貨幣流通額」表。

〔註二〕 前掲二二六。

〔註三〕 前掲「貨幣及小切手流通量」表。

〔註四〕 前掲二二三。

〔註五〕 前掲一四八—一五一。

〔註六〕 前掲四九、一四八。

産業社會に於ける諸種の機關は極めて相互に敏感であつて、重要な商業種目の振、不

振は全商業界を通じて感ぜらるゝものなること一般に知らるゝ所である。故に若し逐年度に於ける各種の代表的産業の状態を示すべき相當正確なる資料を得ることが出来たならば、此の資料から商業全般の取引額に關する價值ある結論を下し得べき筈である。

逐年度に於ける流通媒介物に對する相對的需要を検すべき方法として主なるもの數種ある。人口の大いさも屢々大凡の見積りに於ける標準として用ひられた。又「ゼヴォンス」は外國貿易總額が其の當時最も普通に用ひられた標準なりとし、更に之に附言して曰く、「其の國內商業たると外國貿易たるとを問はず、商業取引の發達を検するに最も善き標準は我國富の主發條たる石炭産出額に依つて供せらるゝ」と註。其の他屢々用ひられた標準は鉄鐵の消費額及鐵道の總所得である、然し乍ら或る一種の産業種目に付ての資料は、其の産業に特殊なる事情に依つて誤られる虞がある。固より概して一種の産業の繁榮状態は他の種類の産業にも有力なる影響を及ぼすものではあるけれども、如何に夫れが主要産業なりと雖も、一種の産業は決して他の總ての産業の指標として安全なるものとは言へない。

例之、鉄鐵の消費高は、大概の時には商業取引の盛衰を見るに好適なる標準であるけれども、近年に至つては生産方法の變遷と鉄鐵に對する未曾有なる需要とは鉄鐵の消費をして我國商業全般の増加よりは遙かに速なる率を以て増加せしめたること世間周知の事實である。又他方最近期に於ける合衆國の商業取引は其の大部分の主要農産物の消費の増加と不相應なる率を以て増加したること毫も疑無き所である。

[註] Money, etc., 310.

斯くの如き一種の産業に特有なる事情を排除して商業全般の大いさを概観せしめんが爲め、次表「商業取引額」に於ては十四種の商業動態を示す數字、竝に人口數を示す數字を結合したのである。同表は見らるゝが如く一部に分たれて居る。其の第一部は、性質上一般的にして、重要な種類の産業其者を示すのみならず、夫等が多くの特殊産業に密接



なる關係を有する結果、商業全般の狀況をも反映すべき項目より成り立つて居る。其の第二部は、數種の生産企業に屬する重要な代表的物品に關する資料を結合したものである。即ち小麥及玉蜀黍の消費は農業の指標であり、羊毛及綿の消費は織物業の指標であり、銑鐵及瀝青炭の消費は採礦及製造工業全般の指標であり、又「ニューヨーク」株式取引所に於ける賣買は投機の指標である。「商業取引額一般指數」は同表中に於ける其他一切の指數の單純平均であつて、之に依り各種産業に特殊なる特質の大いさを排除し各種に共通なる特質を強調して、云はば商業全般の取引額の合せコムボットンオトグラフ寫眞たらしめんことを期したのである。

商業取引額 (第一部)

P 252-253.

年度 毎年六月 三十日 = 終ル	人口 (六月一日)		出入船舶		商品輸出入額		逓信省収入		合衆國鐵道 運轉所 總所得		合衆國鐵道 運送貨物		西部聯合電信 會社受領額		銑鐵消費額	
	數	指數	噸	指數	價值	指數	金額	指數	金額	指數	噸	指數	金額	指數	噸	指數
	000,000		000,000		000,000		000,000		000,000		000,000		000,000		000,000	
1879	49	89	27	108	1,156	81	30	68	526	67			11.0	58	2,385	50
1880	50	91	31	120	1,504	105	33	76	614	78			12.8	67	3,494	74
1881	51	93	31	124	1,545	108	37	84	702	89			14.4	76	4,246	89
1882	52	96	30	116	1,475	103	42	95	764	97	360	92	17.1	90	4,630	98
1883	54	98	27	106	1,547	109	46	104	817	104	400	102	19.5	103	5,051	107
1884	55	100	24	96	1,408	99	43	99	771	98	339	86	19.6	104	4,874	103
1885	56	102	25	98	1,320	93	43	97	765	97	437	111	17.7	93	4,245	92
1886	57	104	25	97	1,315	92	44	100	822	105	482	123	16.3	86	4,298	93
1887	59	106	27	107	1,409	99	49	112	931	119	552	141	17.2	91	6,094	129
1888	60	109	26	103	1,420	100	53	120	951	121	591	151	19.7	104	6,733	142
1889	61	111	27	106	1,488	104	56	123	965	123	540	138	20.8	110	6,653	138
1890	63	114	31	122	1,647	114	61	139	1,052	134	637	162	22.4	118	7,732	163
1891	64	116	31	122	1,729	121	66	151	1,097	140	676	172	23.0	122	9,271	196
1892	65	119	36	143	1,858	130	71	162	1,171	149	707	180	23.7	125	8,347	176
1893	66	111	34	132	1,714	120	76	173	1,221	156	745	190	25.0	132	9,200	195
1894	68	123	34	136	1,547	109	75	171	1,073	137	638	163	21.9	115	7,124	151
1895	69	126	34	133	1,540	108	77	176	1,075	137	697	178	22.2	117	6,649	141
1896	70	130	35	139	1,662	117	82	188	1,150	147	766	195	22.6	119	9,504	201
1897	72	150	40	157	1,816	127	83	188	1,122	143	742	189	22.6	119	8,476	179
1898	73	133	44	172	1,848	129	89	203	1,247	159	879	224	23.9	126	7,441	157
1899	74	135	44	174	1,924	135	95	216	1,314	168	960	245	24.0	126	11,497	243
1900	76	139	47	186	2,244	157	102	233	1,487	190	1,102	281	21.8	131	13,521	286
1901	78	141	50	196	2,311	162	112	254	1,589	203	1,089	278	26.4	139	13,573	288
1902	79	145	48	192	2,285	160	122	287	1,726	220	1,200	306	28.1	149	15,982	339
1903	80	146	50	196	2,446	172	134	306	1,902	243	1,304	333	29.2	154	18,857	400
1904	82	149	48	191	2,452	172	145	328	1,975	252	1,273	325	29.2	154	18,165	385
1905	83	151	50	197	2,636	185	153	348	2,082	265	1,435	366	29.0	153	16,561	351
1906	84	153	54	213	2,970	208	168	382	2,326	297	1,610	411	30.7	162	23,202	491
1907	86	156	58	221	3,315	233	184	418	2,586	330	1,722	458	32.9	174	25,781	546
1908	87	158	60	237	3,055	214	191	434	—	314	—	436	28.6	151	25,931	549

る。即ち小麦及玉蜀黍の消費は農業の指標であり、羊毛及綿の消費は織物業の指標であり、銑鐵及瀝青炭の消費は採礦及製造工業全般の指標であり、又「ニューヨーク」株式取引所に於ける賣買は投機の指標である。「商業取引額一般指數」は同表中に於ける其他一切の指數の單純平均であつて、之に依り各種産業に特殊なる特質の大いさを排除し各種に共通なる特質を強調して、云はば商業全般の取引額の合せ寫眞たらしめんことを期したのである。

## 商業取引額 (第二部)

P. 252-253.

年度 毎年六月 三十日= 終ル	瀝青炭消費額		小麦消費額		玉蜀黍消費額		内國及外國 産綿消費額		内國及外國産 羊毛消費額		葡萄酒及其ノ他 ノ酒類消費額		ニユーヨーク 株式取引所ニ於ケ ル報告セラレタル 賣買ノ市場價值		商業取引 額一般指 數(公式 中N+Ne ヲ示ス)
	噸 000,000	指數	「ブッシェル」 000,000	指數	「ブッシェル」 000,000	指數	「ポンド」 000,000	指數	「ポンド」 000,000	指數	「ガロン」 000,000	指數	金額 000,000	指數	
1879	34	50	270	77	1,300	81	779	81	246	67	423	62	2,679	44	70
1880	33	50	268	77	1,448	90	953	99	357	97	506	73	5,460	91	85
1881	39	57	312	90	1,624	101	1,011	105	290	79	539	78	8,788	146	94
1882	49	72	262	75	1,151	72	851	94	336	91	625	92	7,502	125	94
1883	61	90	356	102	1,575	98	1,118	116	337	97	656	96	6,663	111	103
1884	69	101	310	89	1,505	94	901	94	376	102	692	102	6,695	111	99
1885	74	109	380	109	1,743	108	855	89	375	102	689	101	4,665	77	99
1886	65	96	263	75	1,871	116	1,128	117	424	115	742	109	6,355	106	102
1887	67	99	303	87	1,624	101	991	103	392	106	821	121	5,271	88	107
1888	79	117	337	96	1,431	89	1,180	123	378	102	880	129	3,659	61	111
1889	91	135	327	94	1,917	119	1,063	111	338	105	895	132	4,043	67	115
1890	85	126	381	109	2,009	125	1,164	121	378	102	973	143	4,114	68	124
1891	99	146	293	84	1,458	91	1,429	149	411	111	1,098	162	3,529	58	129
1892	105	154	387	111	1,939	121	1,600	167	439	119	1,113	164	4,796	79	140
1893	113	166	324	93	1,581	98	1,184	123	471	128	1,208	178	5,049	84	139
1894	114	167	233	67	1,553	97	1,113	116	347	94	1,148	169	3,232	54	125
1895	105	155	316	91	1,184	74	1,568	163	509	138	1,142	168	3,321	55	131
1896	120	176	341	98	2,051	123	1,311	137	490	133	1,170	172	3,632	60	143
1897	122	179	283	81	2,105	131	1,344	140	601	163	1,181	174	3,745	56	144
1898	130	192	313	90	1,691	105	1,879	196	397	107	1,266	186	7,185	119	153
1899	147	216	452	130	1,747	109	2,071	216	335	91	1,249	184	12,162	202	173
1900	169	249	361	104	1,865	116	1,722	180	437	118	1,349	199	10,199	168	183
1901	186	274	306	88	1,924	120	2,014	210	402	109	1,390	205	18,165	303	198
1902	198	291	514	147	1,495	93	2,027	212	480	130	1,539	227	13,389	223	207
1903	231	339	467	134	2,447	152	1,980	207	461	125	1,606	237	13,937	232	225
1904	248	365	517	148	2,186	136	2,067	216	462	125	1,659	244	7,659	128	221
1905	244	359	511	147	2,377	148	2,749	287	542	147	1,694	249	20,259	337	246
1906	276	406	596	171	2,588	161	2,231	233	495	134	1,874	276	22,428	373	271
1907	299	440	589	169	2,841	177	2,534	265	499	135	2,020	297	20,424	340	291
1908	345	507	471	135	2,537	158	2,137	223	431	117	2,006	295	11,263	187	274



る。各項目の指數は總て一八八三、一八八四、及一八八五年の數字の平均を一〇〇とせるものである。「商業取引額一般指數」、は同表中其の他の指數の單純平均である。是は公式 
$$P_s = \frac{MR+CR_c}{N+N_c}$$
 に於ける  $N+N_c$  中に包含せらるゝ諸働因の相對的移動を示さんとせるものである。

本表中の數字と比照して價值あるものは、「商業及金融毎月要覽」一九〇二年度六月號に收められた『重要産業に於ける合衆國の發達』(Progress of the United States in its Material Industries)と題するものである。是に據れば、我國國立銀行預金は凡、一八八〇年度一、〇〇六、〇〇〇、〇〇〇弗、一八九〇年度一、四八五、〇〇〇、〇〇〇弗、一九〇〇年度二、六二四、〇〇〇、〇〇〇弗、又之を比例にて示せば、一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一四七、二九〇〇年度二六七である。貯蓄銀行預金は凡、一八八〇年度八一九、〇〇〇、〇〇〇弗、一八九〇年度一、五二五、〇〇〇、〇〇〇弗、一九〇〇年度二、四五〇、〇〇〇、〇〇〇弗、又之を比例にて示せば、一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一八六、一九〇〇年

度二九九である。農場財産見積價値は、一八八〇年度二二、一八一、〇〇〇、〇〇〇弗、一八九〇年度一六、〇八二、〇〇〇、〇〇〇弗、一九〇〇年度二〇、五一四、〇〇〇、〇〇〇弗、又之を比例にて示せば、一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一三二、一九〇〇年度一六八である。農作物の見積價値は一八八〇年度二、二二三、〇〇〇、〇〇〇弗、一八九〇年度二、四六〇、〇〇〇、〇〇〇弗、一九〇〇年度三、七六四、〇〇〇、〇〇〇弗、又之を比例にて示せば、一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一一一、一九〇〇年度一七〇である。合衆國工業生産物見積價値は、一八八〇年度五、三七〇、〇〇〇、〇〇〇弗、一八九〇年度九、三七二、〇〇〇、〇〇〇弗、一九〇〇年度一三、〇三九、〇〇〇、〇〇〇弗、又之を比例にて示せば、一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一七五、一九〇〇年度二四三である。亞米利加船舶の建造噸數は、一八八〇年度一五七、四一〇噸、一八九〇年度二九四、二二三噸、一九〇〇年度三九三、七九〇噸、又之を比例にて示せば一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一八七、一九〇〇年度二一五〇である。合衆國に於て刊行せらるる新聞紙及定期刊行物の數は一八八〇年度

九、七二三、一八九〇年度一六、九四八、一九〇〇年度二〇、八〇六、其の比例は一八八〇年  
 度一〇〇、一八九〇年度一七四、一九〇〇年度二二四である。而して各年度に於ける此等各  
 種の比例(但調査日附を異にす)の平均は一八八〇年度一〇〇、一八九〇年度一五九、一九〇  
 〇年度二三〇である。今此等の數字を本書の表中之と同期間に於ける商業取引額指數と比  
 較せば密接なる一致を示して居るのである。

## 第七章 相對的物價

等式  $P_s = \frac{MR + CR_c}{N + N_c}$  中最後に測定すべき項は  $P_s$  である。此の項は  $N + N_c$  に依て豫想  
 せらるゝ一切の各物貨が交換せらるゝ諸價格の單純なる平均數を示すものである(註一)。  
 今若し各種の物貨が一單位に付交換せらるゝ價格を示すに  $P_1, P_2, P_3, P_4, \dots, P_x$  と  
 し、各價格に於て交換せらるる單位數を示すに  $n_1, n_2, n_3, n_4, \dots, n_x$  を以てすれば  
 銀行準備金を除く流通媒介に對する需要は  $P_1 n_1 + P_2 n_2 + P_3 n_3 + P_4 n_4 + \dots, P_x n_x$  に  
 依つて示され、 $P_s$  は  $\frac{P_1 n_1 + P_2 n_2 + P_3 n_3 + P_4 n_4 + \dots, P_x n_x}{n_1 + n_2 + n_3 + n_4 + \dots, n_x}$  なること明かである。「アー  
 ヴィング、フィッシャー」は右と同一の趣旨を他の方法で以て述べて曰く、

吾人が物價の水準は流通媒介物の數量と關係を有すとの趣旨を論ずるに當つては、

………其の卸賣價格たると小賣價格たるとを問はず、凡ゆる價格を之に包含しな  
ければならぬ。又其土地たると有價證券たると、又は人の勤勞たるとを問はず、凡ゆる  
物貨の價格を之に包含しなければならぬ。而して又此等を評量するに當つては消費  
せられたる數量の割合に依るに非ずして、流通媒介物と交換せられたる數量の割合に  
従ふことを要するのである。〔註二〕

〔註一〕 前掲一四八、二四八参照。

〔註二〕 Review of Walsh, The Measurement of Exchange-Value, in Yale Review,  
XI. III (May, 1902).

Psの意義右の如くなるを以て、其の數値を直接に測定することは不可能なるが故に、本  
章に於ても前二章に於けると等しく間接なる測定方法に頼らざるを得ぬ。而して余の茲に

用ひんとする方法は、能ふ限り廣汎なる範圍の物貨に亘つて其の價格の指數を研究する方  
法である。

次に掲げたる物價表に於ては、相互比較の目的を以て、余の調査が亘る期間に關する米  
國物貨の比較的重要なる諸表を收めた。而して次の表に引用せし右諸種の指數表を比較  
せば、之に依つて示されたる物貨の移動は大體に於て一致せるものなることが分るであら  
う。就中、「ジョーン、アール、コムモンズ」及「エヌ、アイ、ストーン」(N. I. Stone)の作  
製に係る物價表は本書の目的に最も有用なるが如くである。〔註〕蓋、同表は五種類に包括  
せる主要生産物六十六種の價格を基礎としたものであつて、其の分類は(一)家畜、(二)  
動物生産物、(三)農作物、(四)金屬、鑛物及木材、(五)工業生産品即ち之である。而  
して其の各種物品は其の生産量に従つて評量したものである。尙、一八七九年より一八八  
九年に至る平均物價を一〇〇とし、且數字は會計年度に依るのである。斯くの如く、同表  
は其の包括せる物貨の範圍、之が跨れる期間、之に用ひられたる量評方法、及び百分比を

年 度 毎年六月 三十日 = 終ル	I. 卸賣物價 (二二三 種ノ物貨ニヨル) 「アルドリッチ、セ ネイト、レポート」 表。一八六〇年ノ 物價ヲ一〇〇トス		II. 卸賣物價 (九〇 種ノ物價ニヨ ル)「アルドリッ チ」及「フアル クナー」表。一 八六〇年ノ物價 ヲ 100 トス	卸賣週 種ノレ スルタ 業ニ 局ノ 八九 八九 年益 ヲ	IX. 物價及賃金評量 平均數、一八八 三、一八八四及 一八八五年ノ指 數平均ヲ 100 ト ス
	單純平均	評量平均			
1879	96.6	95.0	103.4		86
1880	106.9	104.9	115.4	1	105
1881	105.7	108.4	113.5	1	106
1882	108.5	109.1	119.0	1	118
1883	106.0	106.6	114.2	1	109
1884	99.4	102.6	105.2	1	100
1885	93.0	93.3	96.9		91
1886	91.9	93.4	95.8		89
1887	92.6	94.5	96.3		90
1888	94.2	93.2	98.2		92
1889	94.2	98.5	98.9		93
1890	92.3	93.7	96.3		90
1891	92.2	94.4	96.6	)	94
1892			92.4	3	90
1893			93.2	3	90
1894			86.1	2	82
1895			81.5	7	80
1896			81.5	4	77
1897			78.6	5	74
1898			80.4	2	80
1899			83.6	0	80
1900				2	92
1901				1	92
1902				0	98.6
1903				2	99.6
1904				3	96.5
1905				2	101.1
1906				0	107.8
1907				15	112.0
1908				4	103.3

〔註一〕本表並ニ符號 註二、註三

測定せる基礎等の理由に依り、本書の目的に最も有用なるものである。

〔註〕 Final Report of the United States Industrial Commission, XIX. 29, 30, 1105-1114.

其の他の種類の價格にして之に關して用ひ得べき資料が存するものは、唯労働及或種の有價證券の價格のみである。小賣物價は地方を異にするに従つて大いに異なるが爲め、之に關する數字は本書の目的には何等の價値をも有しない。概して言へば、小賣物價は卸賣物價に追従するものであるけれども、其の敏感の程度劣るが故に之より遅ること大である。  
〔註〕又不動産の相對的價格に付ては何等用ひ得べき數字が存しない。

〔註〕 Cf. Retail Prices of Food, 1890-1904, in Bulletin of the Bureau of



物 價 及 賃 金 (註一)

P. 260-261.

年 度 毎年六月 三十日 = 終ル	I.		II.	III.	IV.	V.	VI.	VII.	VIII.	IX.
	卸賣物價 (二二三 種ノ物貨ニヨル) 「アルドリッチ、セ ネイト、レポート」 表。一八六〇年ノ 價ヲ一〇〇トス	單純平均	卸賣物價 (九〇 種ノ物貨ニヨ ル)「アルドリッ チ」及「フアル クナー」表。一 八六〇年ノ物價 ヲ 100 トス	卸賣物價 (六六 種ノ物貨ニヨ ル)「コンモン ス」表。一八七 九年乃至一八八 九年ノ物價ヲ 100 トス	卸賣物價 (九類 別二五一乃至二 六一種ノ物貨ニ ヨル) 勞働局 表。一八九〇 年乃至一八九九 年ノ物價ヲ 100 トス	鐵道株價格 (二 十乃至八株ニ ヨル) コンモン ス」表。一八七 九年乃至一八八 九年ノ價格ヲ 100 トス	二十鐵道株平均 價格。「ウォー ル、ストリート、 ジャーナル」誌	賃金 (二五種ノ 職業ニヨル) 勞 働省表。一八 九一年ノ賃金ヲ 100 トス	一勞働者一週間 收益 (選ベレタ ル若干ノ職業ニ ヨル) 勞働局ノ 數字。一八九 〇年乃至一八九 九年ノ收益ヲ 100 トス	物價及賃金評量 平均數、一八八 三、一八八四及 一八八五年ノ指 數平均ヲ 100 ト ス
1879	96.6	95.0	103.4	89		73		91.1		86
1880	106.9	104.9	115.4	107		98		91.9		105
1881	105.7	108.4	113.5	107		114		94.6		106
1882	108.5	109.1	119.0	120		116		96.2		118
1883	106.0	106.6	114.2	111		112		97.0		109
1884	99.4	102.6	105.2	102		97		97.8		100
1885	93.0	93.3	96.9	94		75		97.1		91
1886	91.9	93.4	95.8	90		89		97.1		89
1887	92.6	94.5	96.3	90		101		97.9		90
1888	94.2	93.2	98.2	93		98		98.5		92
1889	94.2	98.5	98.9	94		100		98.8		93
1890	92.3	93.7	96.3	90	112.9	105		99.3		90
1891	92.2	94.4	96.6	95	111.7	98		100	101.0	94
1892			92.4	90	106.1	102		100	100.8	90
1893			93.2	90	105.6	103		99.9	101.3	90
1894			86.1	82	96.1	87		98.0	101.2	82
1895			81.5	81	93.6	84		97.2	97.7	80
1896			81.5	77	90.4	88		96.6	98.4	77
1897			78.6	73	89.7	86		96.1	99.5	74
1898			80.4	79	93.4	99	61.6	95.6	99.2	80
1899			83.6	77	101.7	115	75.1	96.8 (註三)	99.9	80
1900				90	110.5	126	80.4	99.6 ( ' )	101.2	92
1901				88	108.5	143	92.9	101.3 ( ' )	104.1	92
1902				91.6 (註二)	112.9	174.8	113.6	104.4 ( ' )	105.9	98.6
1903				92.2 ( ' )	113.6	179.1	116.4	107.3 ( ' )	109.2	99.6
1904				91.7 ( ' )	113.0	146.3	95.1	107.2 ( ' )	112.3	96.5
1905				94.0 ( ' )	115.9	177.3	115.2	109.1 ( ' )	112.2	101.1
1906				99.4 ( ' )	122.5	199.3	129.5	113.4 ( ' )	114.0	107.8
1907				105.0 ( ' )	129.5	188.2	122.3	117.1 ( ' )	118.5	112.0
1908				99.6	122.8	145.9	94.8		122.4	103.3

〔註一〕本表並ニ符號 註二、註三ニ付テハ二六〇頁以下參照

〔註〕 Cf. Retail Prices of Food, 1890—1904, in Bulletin of the Bureau of

有價證券の價格のみである。小賣物價は地方を異にするに従つて大いに異なるが爲め、之に  
關する數字は本書の目的には何等の價値をも有しない。概して言へば、小賣物價は卸賣物  
價に追従するものであるけれども、其の敏感の程度劣るが故に之より遅ること大である。  
〔註〕又不動産の相對的價格に付ては何等用ひ得べき數字が存しない。



一 卸賣物價の指數(第一欄)は「アルドリッチ、セネイト、レポート」(Aldrich Senate Report)より採録せるものであつて、既に世人の熟知せるものなるが故に、何等説明を要しなす。其の中評量平均數は「一切の物品を其の重要性に従つて評量せるものであつて、購買費總額の六八・六〇「パーセント」を占むるものである」。九十種の物品に付ての卸賣物價表(第二欄)は一八九二年以前に付ては「アルドリッチ、セネイト、レポート」の諸表に基き、又一八九二年より一八九九年に至る期間中に付ては「アルドリッチ、セネイト、レポート」の諸表並に之が補充として「アール、ビー、フアークナー」(R.P. Falkner)の作製に係る諸表を基礎とした。(Bulletin Department of Labor, No. 38, P. 123, January, 1902)「コムモンズ」氏指數(第三欄)は相對的物價に關する本書の結論の主たる基礎をなすものであつて、既に説明した所である(前掲二五七)。此の數字に付ての詳細なる説明は「産業委員會報告」(Report of the Industrial Commission; XIX, 29, 30, 1105—1114)中に在る。

第三欄指數中註二なる符號を附せるものは第四欄中之に該當せる年度の指數に基くものにして、其の各年度が其の前年と比較して増減せる割合は第四欄中之に該當せる指數に依つて示さるる増減の割合と同一である。二五一種乃至二六一種の物品を分類せる物貨九種類に付ての卸賣物價指數(第四欄)は「労働局記事」(Bulletin of the Bureau of Labor)一九〇五年、一九〇八年及一九〇九年より採録せるものである。鐵道株價格の指數(第五欄)中一八七九年より一九〇一年に至る期間のものは「ジョン、アール、コムモンズ」及「エヌ、アイ、ストーン」の作製に係るものにして「産業委員會報告」(XIX, 29)より採録せるものである。又一九〇二年より一九〇八年に至る期間のものは「ウォール、ストリート、ジャーナル」誌に示されたる二十鐵道株の毎月指數より計算せるものであつて、此の數字(第六欄)に常數一、五三九を乗じて「コムモンズ」の數字(一九〇一年に於ける)との權衡を保たしめた。

二 二五種の職業に付ての賃金指數(第七欄)は労働局の作製に係り「産業委員會報告」

(XIX. 730)より採録せるものである。第七欄指數中註三なる符號を附せるものは、第八欄中之に該當せる指數に基くものにして、其の各年度を之が前年と比較して増減せる割合は、第八欄中之に該當せる指數に依りて示さるゝ増減の割合と同一である。選ばれたる若干の職業に付き一被傭者一週間の収益を示す數字(第八欄)は勞働局の作製に係り「勞働局記事」一九〇五年七月號(一七頁)及一九〇八年七月號(七頁)より採録せるものである。

三 物價及賃金の一般指數(第九欄)は卸賣物價の指數(第三欄)鐵道證券の價格指數(第五欄)及賃金指數(七欄)を結合して一評量平均數とせるものである。

四 「カロール、ディー、ライト」(Carroll D. Wright)の見積に據れば、一八九〇年度合衆國勞働者數は一五、〇〇〇、〇〇〇人にして、其の平均賃金は年四〇〇弗なるが故に、賃金年支配額は六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗なりと居る。(Practical Sociology, 227)又一八九〇年「ニューヨーク」株式取引所にて賣買せられし有價證券にして報告せられしもの市場價值は大凡四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗である。(「氣配」表、前掲二四五、参照)

「商業及金融時報」一八九二年五月の見積に據れば、株式取引所手形交換額は報告せられし有價證券賣買總額の二倍半に登るとして居る。而して有價證券の購買は殆んど全く小切手を媒介として行はれるのである。故に今一八九〇年度「ニューヨーク」有價證券賣買總額は一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に上り、且同年度に於ける我國賣買總額は「ニューヨーク」賣買總額と畧と同率を保ち、又同年度に於ける我國手形交換總額は「ニューヨーク」手形交換總額と畧と同率を保つものと假定せよ。右の假定に據れば、一八九〇年度我國有價證券取引總額は一五、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に登ることとなる。一八九〇年度合衆國の一切の種類の商業取引總額は一八三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗なること既に吾人が見積りたる所である(前掲「貨幣及小切手流通量」表)。此等の見積額より考ふれば、右總額に對する賃金額の割合は約三「パーセント」となり、右總額に對する株式及其他の有價證券の割合は八「パーセント」となる。今賃金指數(第七欄)、卸賣物價指數(第三欄)及株式價格指數(第五欄)をして各自一八八三年、一八八四年及一八八五年の指數の平均を其の計算の

基礎と爲さしめ、且賃金に付ては三「パーセント」、株式價格に付ては八「パーセント」、及び卸賣物價に付ては残りの八九「パーセント」の割合に従つて之を評量すれば、即ち物價及賃金一般指數(第九欄)を得るのであつて、次章に於ける結論は實に此の一般指數を基礎とするものである。一九〇八年に付ては未だ利用すべき賃金指數がないから、右の一般指數は物貨九二パーセント株式價格八「パーセント」の割合で評量した。

## 第八章 結論

本書第二編が統計的に其の正否を検せんことを目的とした處の第一編の主要なる結論を簡単に要約すれば次の如くである。〔註〕

〔註〕 前掲一七四参照。

- 一 一定の銀行發達の狀況に於て、且氣配の靜的なる狀態の下に於ては、一國の銀行準備金は貨幣供給の増減に正比例して増減すべきものである。
- 二 小切手流通量(CRC)は銀行準備金に依つて支持せられ、且一定の銀行發達の狀況に於ては準備金に對する小切手流通量の割合は其の國に現存する氣配の強弱の程度に正比

例して變動するものなるが故に、爾余の條件にして等しく特に氣配にして變動無きときは其の國の小切手流通量は其の國銀行準備金に依つて定まる。

三 流通媒介物の相對的增加は之に正比例する一般物價の増加を伴ひ、又流通媒介物の相對的減少は之に正比例する一般物價の減少を伴ふ。即ち之を公式に就て示せば、

$$P_s = \frac{MR + CR_c}{N + N_c}$$

である。

四 第四の結論は前の三個の結論の系論たるものであつて、必然的に此等より生ずるものである。即ち爾余の條件にして等しくして氣配に變動無きときは、貨幣供給額の増加は之に正比例する一般物價の増加を伴ひ、又貨幣供給額の減少は之に正比例する一般物價の減少を伴ふ。之を公式に就て示せば、一般價格水準即ち  $P_s$  を示すべき交換の媒介物の相對的供給即ち  $\frac{MR + CR_c}{N + N_c}$  は、爾余の條件にして等しければ、貨幣供給總額に依つて定まり、従つて又銀行準備金を除く貨幣供給額即ち公式中  $M$  に依つて定まるのである。〔註〕

〔註〕 前掲一七七註参照。

第二篇の前章迄にて價格等式に於ける各種働因の相對値を統計的に測定した。本章に於て吾人の爲すべきことは、右數個の統計的研究を綜合して、其の結果が前篇の演繹的研究に於て到達したる結論を證據立つるものなりや、又は之と矛盾するものなりやを検することである。次掲の表は本問題に於ける主要なる働因の相對的移動に付て前掲諸表に於て計算せるものを参照の便宜上要約せるものである。〔註〕

VI	III	II	I	五	平
17	100	100	100	100	100
18	100	100	100	100	100
19	100	100	100	100	100
20	100	100	100	100	100
21	100	100	100	100	100
22	100	100	100	100	100
23	100	100	100	100	100
24	100	100	100	100	100
25	100	100	100	100	100
26	100	100	100	100	100
27	100	100	100	100	100
28	100	100	100	100	100
29	100	100	100	100	100
30	100	100	100	100	100
31	100	100	100	100	100
32	100	100	100	100	100
33	100	100	100	100	100
34	100	100	100	100	100
35	100	100	100	100	100
36	100	100	100	100	100
37	100	100	100	100	100
38	100	100	100	100	100
39	100	100	100	100	100
40	100	100	100	100	100
41	100	100	100	100	100
42	100	100	100	100	100
43	100	100	100	100	100
44	100	100	100	100	100
45	100	100	100	100	100
46	100	100	100	100	100
47	100	100	100	100	100
48	100	100	100	100	100
49	100	100	100	100	100
50	100	100	100	100	100
51	100	100	100	100	100
52	100	100	100	100	100
53	100	100	100	100	100
54	100	100	100	100	100
55	100	100	100	100	100
56	100	100	100	100	100
57	100	100	100	100	100
58	100	100	100	100	100
59	100	100	100	100	100
60	100	100	100	100	100
61	100	100	100	100	100
62	100	100	100	100	100
63	100	100	100	100	100
64	100	100	100	100	100
65	100	100	100	100	100
66	100	100	100	100	100
67	100	100	100	100	100
68	100	100	100	100	100
69	100	100	100	100	100
70	100	100	100	100	100
71	100	100	100	100	100
72	100	100	100	100	100
73	100	100	100	100	100
74	100	100	100	100	100
75	100	100	100	100	100
76	100	100	100	100	100
77	100	100	100	100	100
78	100	100	100	100	100
79	100	100	100	100	100
80	100	100	100	100	100
81	100	100	100	100	100
82	100	100	100	100	100
83	100	100	100	100	100
84	100	100	100	100	100
85	100	100	100	100	100
86	100	100	100	100	100
87	100	100	100	100	100
88	100	100	100	100	100
89	100	100	100	100	100
90	100	100	100	100	100
91	100	100	100	100	100
92	100	100	100	100	100
93	100	100	100	100	100
94	100	100	100	100	100
95	100	100	100	100	100
96	100	100	100	100	100
97	100	100	100	100	100
98	100	100	100	100	100
99	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100
101	100	100	100	100	100
102	100	100	100	100	100
103	100	100	100	100	100
104	100	100	100	100	100
105	100	100	100	100	100
106	100	100	100	100	100
107	100	100	100	100	100
108	100	100	100	100	100
109	100	100	100	100	100
110	100	100	100	100	100
111	100	100	100	100	100
112	100	100	100	100	100
113	100	100	100	100	100
114	100	100	100	100	100
115	100	100	100	100	100
116	100	100	100	100	100
117	100	100	100	100	100
118	100	100	100	100	100
119	100	100	100	100	100
120	100	100	100	100	100
121	100	100	100	100	100
122	100	100	100	100	100
123	100	100	100	100	100
124	100	100	100	100	100
125	100	100	100	100	100
126	100	100	100	100	100
127	100	100	100	100	100
128	100	100	100	100	100
129	100	100	100	100	100
130	100	100	100	100	100
131	100	100	100	100	100
132	100	100	100	100	100
133	100	100	100	100	100
134	100	100	100	100	100
135	100	100	100	100	100
136	100	100	100	100	100
137	100	100	100	100	100
138	100	100	100	100	100
139	100	100	100	100	100
140	100	100	100	100	100
141	100	100	100	100	100
142	100	100	100	100	100
143	100	100	100	100	100
144	100	100	100	100	100
145	100	100	100	100	100
146	100	100	100	100	100
147	100	100	100	100	100
148	100	100	100	100	100
149	100	100	100	100	100
150	100	100	100	100	100

**X.**  
 量 一般物價  
 公式中 Ps  
 指 數  
 86  
 105  
 106  
 118  
 109  
 100  
 91  
 89  
 90  
 92  
 93  
 90  
 94  
 90  
 90  
 82  
 80  
 77  
 74  
 80  
 80  
 92  
 92  
 99  
 100  
 96  
 101  
 108  
 112  
 108

[註] 第九欄は逐年に於ける商業取引額を一定にした貨幣及小切手流通量の移動を示すものである。其指數は各年度に於ける貨幣及小切手流通總額の指數(第六欄)を商業取引額の指數(第八欄)にて割つて得たものである。

今最初に研究すべき問題は、吾人の統計的研究に據れば我國貨幣供給額と其の銀行準備金との間には如何なる關係が存在するものなり乎、兩者が相伴つて變動すべき傾向あることとに付き何等かの證明存するものなり乎の點である。而して此の問題に答ふるが爲め圖表第二を掲げた。

同圖表は自ら説明されて居る。即ち同圖表は『貨幣流通額』の一般的移動と銀行準備金の一般的移動とが、一八七九年より一九〇八年に至る全期間を通じて密接に並行せることを示すのである。唯一つ右期間中平行移動よりの重大なる離脱を示せる部分は一八九四年及一八九五年であるが、該年度は恰も貨幣恐慌の年度に當り、氣配低弱にして[註一]、吾

一 覽 表

P. 270-271.

年 度 (毎年六 月卅日 =終ル)	I. 銀行準備金ヲ 包含セル貨幣 流通額	II. 銀行準備金	III. 銀行準備金ヲ 除外セル貨幣 流通額 公式中 M.	IV. 小切手流通 量 公式中 CRc	V. 銀行準備金ノ 小切手流通量 =對スル比	VI. 貨幣及小切手 流 量 公式中 MR+CRc	VII. 弱 氣 配	VIII. 商業取引額 公式中 N+Nc	IX. 相對的流通量 公式中 $\frac{MR+CRc}{N+Nc}$	X. 一 般 物 價 公式中 Ps
	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數	指 數
1879	63	61	63	71	82	69	108	70	99	86
1880	73	81	69	98	77	91	67	85	107	105
1881	84	84	85	106	74	101	70	94	107	106
1882	93	82	97	123	62	116	71	94	123	118
1883	97	91	100	122	70	115	84	103	112	109
1884	100	91	104	101	85	102	115	99	103	100
1885	103	118	97	77	144	83	101	99	84	91
1886	103	107	102	91	110	95	75	102	83	89
1887	104	123	96	114	102	109	79	107	102	90
1888	109	126	102	118	100	114	94	111	103	92
1889	111	143	99	128	106	120	79	115	104	93
1890	114	136	105	145	89	134	83	124	108	90
1891	118	137	111	145	89	136	99	129	105	94
1892	125	159	112	149	101	138	81	140	99	90
1893	129	154	120	185	78	166	98	139	119	90
1894	132	190	109	135	132	128	114	125	102	82
1895	132	175	115	145	114	136	88	131	104	80
1896	126	150	116	159	89	147	92	143	103	77
1897	127	172	109	150	108	139	106	144	96	74
1898	141	185	123	194	90	173	88	153	113	80
1899	151	201	132	250	76	215	70	173	124	80
1900	160	207	142	264	74	228	74	183	125	92
1901	171	227	149	318	67	269	71	198	136	92
1902	179	233	157	333	66	281	72	207	136	99
1903	183	240	160	351	65	294	71	225	131	100
1904	194	251	171	303	78	264	82	221	119	96
1904	207	283	176	397	67	330	69	246	134	101
1906	215	287	187	455	59	375	62	271	138	108
1907	228	308	197	468	62	387	68	291	133	112
1908	247	367	199	431	80	362	96	259	132	103

すものである。其指數は各年度に於ける貨幣及小切手流通總額の指數(第六欄)を商業取引額の指數(第八欄)にて割つて得たものである。

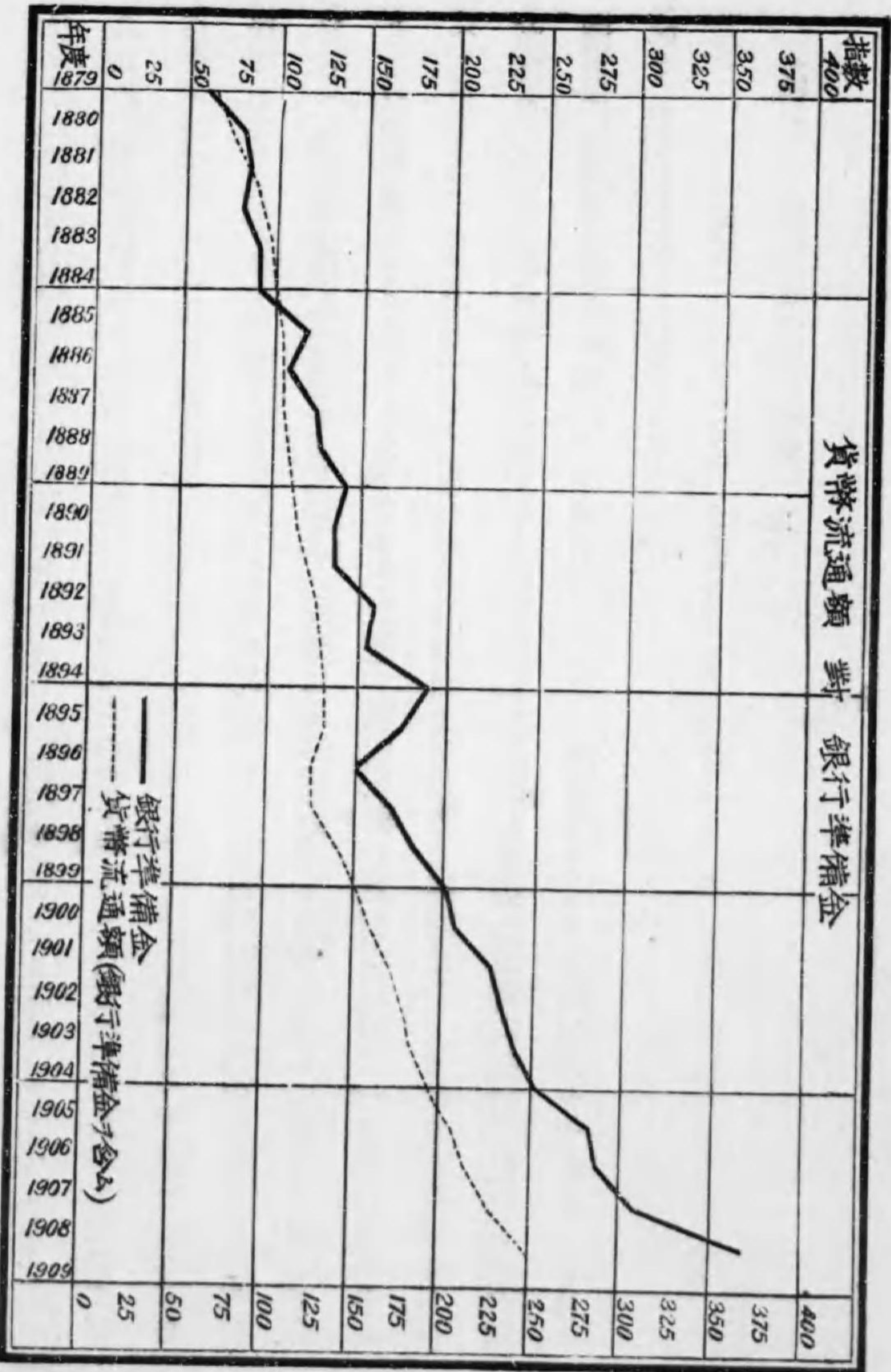
今最初に研究すべき問題は、吾人の統計的研究に據れば我國貨幣供給額と其の銀行準備金との間には如何なる關係が存在するものなり乎、兩者が相伴つて變動すべき傾向あることに付き何等かの證明存するものなり乎の點である。而して此の問題に答ふるが爲め圖表第二を掲げた。

同圖表は自ら説明されて居る。即ち同圖表は『貨幣流通額』の一般的移動と銀行準備金の一般的移動とが、一八七九年より一九〇八年に至る全期間を通じて密接に並行せることを示すのである。唯一つ右期間中平行移動よりの重大なる離脱を示せる部分は一八九四年及一八九五年であるが、該年度は恰も貨幣恐慌の年度に當り、氣配低弱にして(註一)、吾



表：實

年次	V	IV	III	II	I
1879	100	100	100	100	100
1880	100	100	100	100	100
1881	100	100	100	100	100
1882	100	100	100	100	100
1883	100	100	100	100	100
1884	100	100	100	100	100
1885	100	100	100	100	100
1886	100	100	100	100	100
1887	100	100	100	100	100
1888	100	100	100	100	100
1889	100	100	100	100	100
1890	100	100	100	100	100
1891	100	100	100	100	100
1892	100	100	100	100	100
1893	100	100	100	100	100
1894	100	100	100	100	100
1895	100	100	100	100	100
1896	100	100	100	100	100
1897	100	100	100	100	100
1898	100	100	100	100	100
1899	100	100	100	100	100
1900	100	100	100	100	100
1901	100	100	100	100	100
1902	100	100	100	100	100
1903	100	100	100	100	100
1904	100	100	100	100	100
1905	100	100	100	100	100
1906	100	100	100	100	100
1907	100	100	100	100	100
1908	100	100	100	100	100
1909	100	100	100	100	100



第二圖

人の假設に據れば銀行準備金の相對的增加〔註二〕が期待せらるべき時であつた。〔註三〕一八八五年、一八八九年及一八九二年の三箇年は右の二ヶ年よりは離脱小なれども注目し値すべきものである。「氣配」表〔註四〕を見れば、此等の各年度は氣配低弱な年る度〔註五〕の直後であることが判る。第三圖表は右期間中逐年に於て相對的銀行準備金の増加が氣配低弱なる年度を稍と後れて生じ〔註六〕之と精確に同時に非ざることを示して居る。而して此のことは當然豫期せられることである、蓋、氣配低落の最初の影響の一は銀行準備金に加へられるのであるが〔註七〕、銀行が其の準備金を補充し梗塞せる金融状態に適合せしむるが爲めには時日を要するからである。故に若し氣配の波動を適當に斟酌したならば、第一圖表は貨幣流通額と一國銀行準備金額との間に密接なる正比例關係の存することを強く主張するものなること疑を容れない。

〔註一〕 前掲二四四「氣配」表。

〔註二〕 前掲一六三—一七一。

〔註三〕 Cf. Noyes, 182—206, and Conant, History of Modern Banks of Issue, 504—553.

〔註四〕 前掲二四四。

〔註五〕 一八八四年の恐慌は一八八四年五月に至つて始めて開始されたのであつて、其の影響が主として實現されたのは一八八四會計年度最後の三箇月に於てである。即ち一八八四會計年度最後の三箇月に於ける商業破産の負債額は八四、二〇四、三〇四弗に上り、之に比較するに之より前三ヶ月の負債額は四〇、一八六、九七八弗であり、又之より後三ヶ月の負債額は五六、六二七、八二一弗である。又一八九一年度の梗塞も之と等しく同年度後半期の方が強く影響せられた。前掲一八二—一八三参照。

〔註六〕 後述二七五—二七八参照。

〔註七〕 第二及第三圖表参照。一八八二年、一八九三年及び一八九六年に於て銀行準備

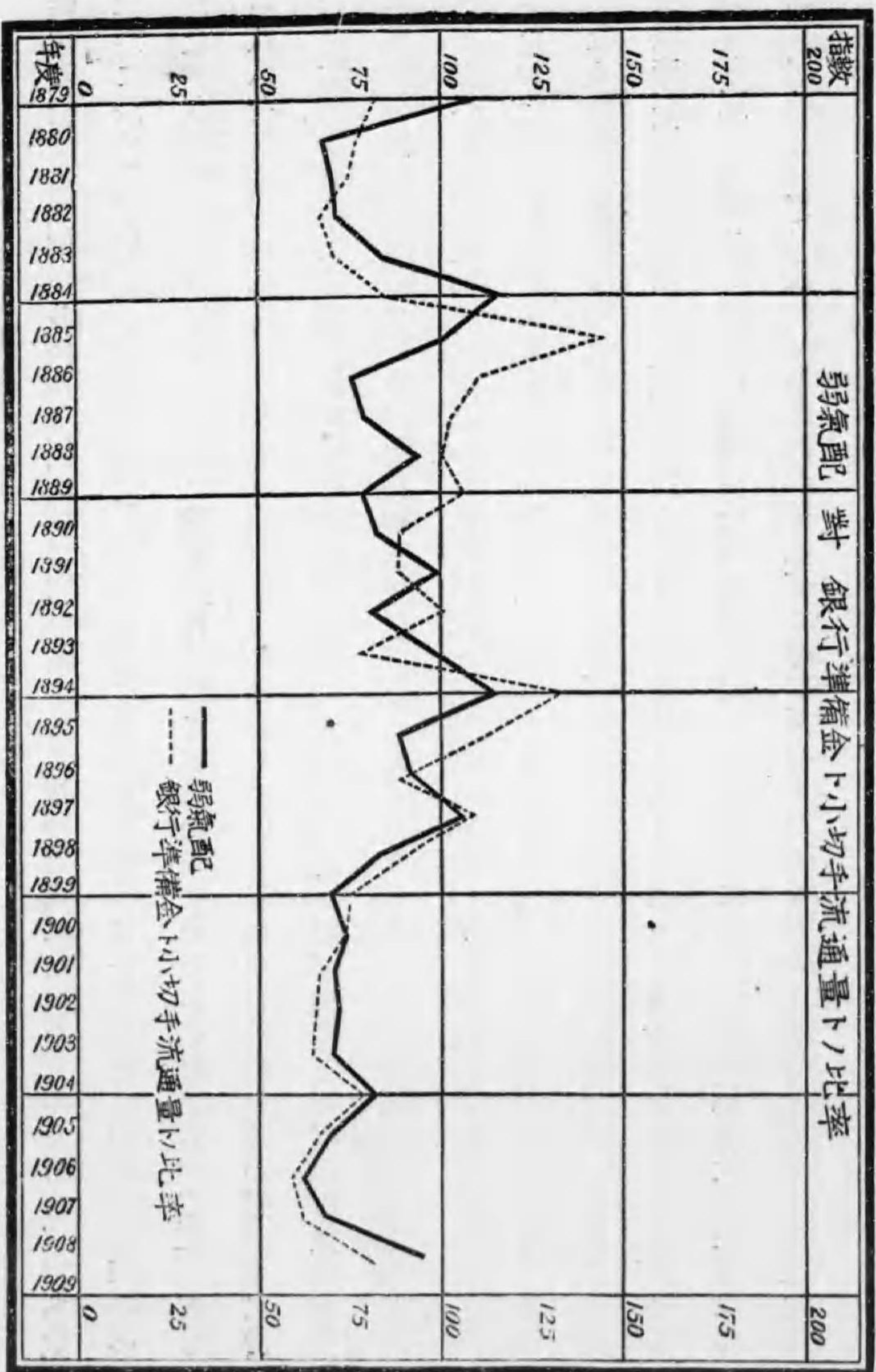
備金が減少して居り且つ右各年の翌年に於て激増せることに注意すべし。

第二に檢すべき問題は、統計に據れば我國銀行準備金の小切手流通總量に對する比率と氣配の移動〔註一〕との間には如何なる關係存するものなり乎、右の比率は本書第一篇に於て主張せしが如く〔註二〕弱氣配の作用にして、又〔好〕氣配の逆作用なり乎、又は何等か他の關係存するものなりや、の點である。

〔註一〕 前掲一六八—一七一。

〔註二〕 前掲一七四。

此の問題は第三圖表「弱氣配對銀行準備金と小切手流通量の比率」が答ふるものである。而して茲に於ても亦吾人は二個の曲線の間に顯著なる並行狀態あるを見るのである。



第三圖

唯之に對する重要な例外は既に第二圖を論ずるに當つて述べた所のものである。即ち數年間に於て(特に一八八七年乃至一八九三年)銀行準備金の小切手流通量に對する比率の移動は弱氣配の之に該當する移動に稍と遅れて居て正確に同時でないのである。(註一)若し一八八七年より一八九三年に至る期間中の各年度に於ける弱氣配の移動を其の翌年度に於ける銀行準備金と小切手流通量の比率の移動に比較したならば、極めて密接なる並行状態存するを見るであらう。今、金融梗塞及清算期の始に於て普通、銀行準備金に重大なる需要が加へられ、(註二)低落しつゝある氣配と増加せる商業破産が共に其の前驅となり原因となつた重大なる需要に應ずるが爲め銀行が其の貸出を緊縮して準備金を増加するには相常なる時日を要する事實を考へて見たならば、低落しつゝある氣配の結果が、之が爲め商業破産が惹起せる後或る期間を経る迄は其の結果が銀行準備金の増加なるものに反映せざること屢とあることは寧ろ當然事たるに過ぎない。事實上に於ても恐慌期中最も險惡なる部分が殆ど過ぎて良好なる反動が開始する時に至つて初めて吾人は銀行準備金の多量なる

増加を期待し得るのである。斯くの如き準備金の増加は其れ自體に於て氣配に樂觀的影響を與へる。一方、再び氣配が強くなつて來ても、銀行が其の貸出しを増加し其の準備金を正常の割合に減ずるには亦時日を要するのである。

[註一] 「エイ、シイ、フィテイカー」(A. C. Whitaker)は最近に於て我國正貨純流出入額と其毎年商品輸出又は輸入超過額との間に之と同様の關係あるを指摘した。Quart. Jour. Econ., XVIII. 249—253 (February, 1904).

[註二] 前掲一八二—一八三。

既に述べたる所を反復するのであるが(註一)、余の研究に於ける調査單位は會計年度であるけれども、研究の對象たる諸種の移動は當然斯くの如き年度に分たるべきものでないから、其處に繼續的の重複が存することを考慮に加へなければならぬ。例へば一八八四年

一八九三年及一八九六年の氣配の低落又は一八八五年の氣配の昂進の如く會計年度の後半期に起れるものは翌年に入らなければ其の影響が充分に感ぜらるゝことを期待することは出来ない。「註二」一方、一八九七會計年度に於ける氣配の低落、一八九八會計年度に於ける氣配の昂進の如く會計年度の初に起れるものは「註三」普通其の影響の大部分を同年度中に實現するものである。

〔註一〕 前掲一八二一—一八三。

〔註二〕 Cf. Noyes, 97 et seqq. 188—206.

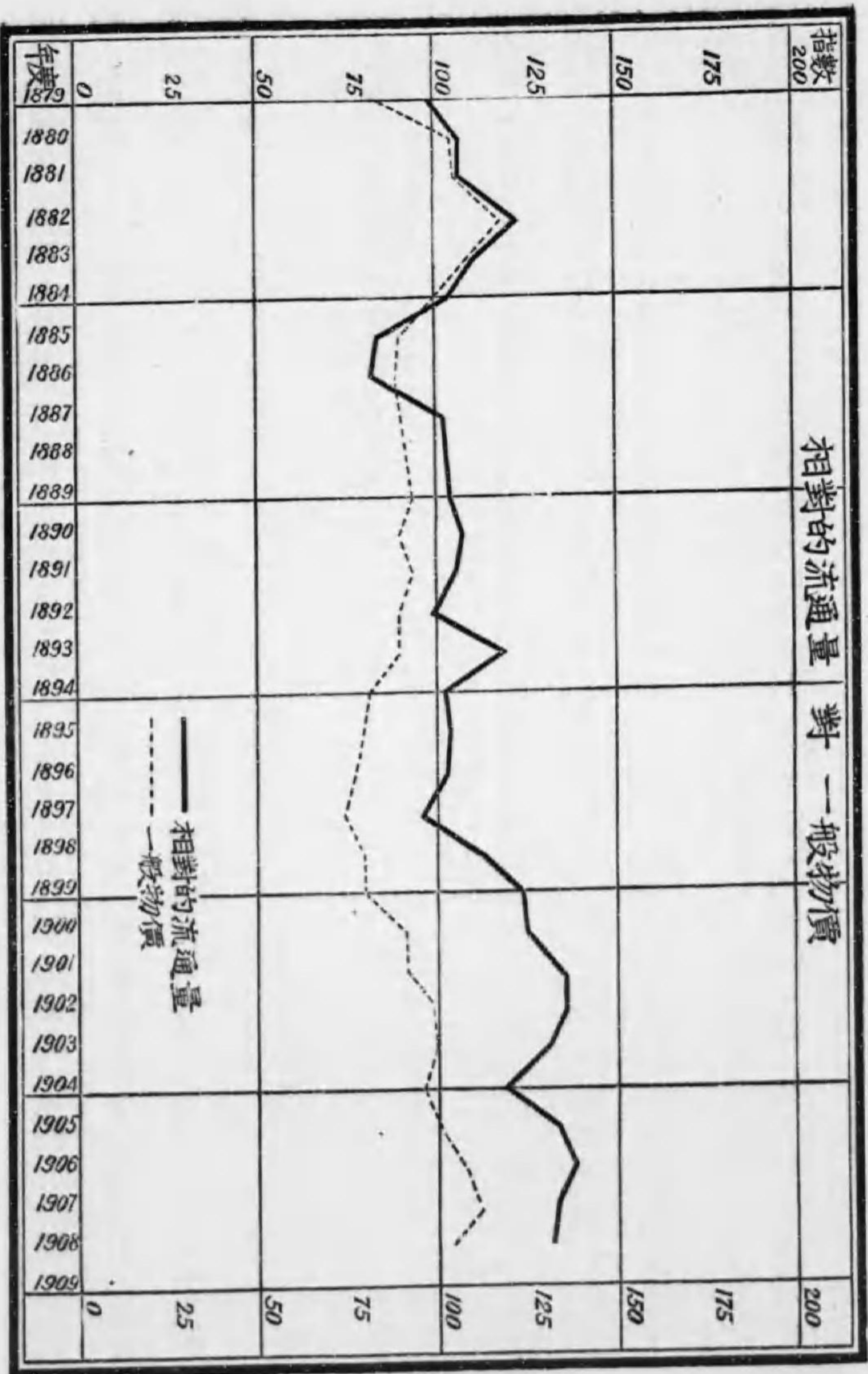
〔註三〕 此二個年中各四半年期に於ける商業破産の件數及負債額参照。 Monthly Summary of Commerce and Finance, August, 1905, 664.

氣配の變動が銀行準備金に影響を及ぼすに要する時日を適當に斟酌したならば、第三圖

表は弱氣配の曲線の移動及び銀行準備金と小切手流通量の比率の曲線の移動との間には極めて顯著なる一致を示すことが明かである。於茲乎、小切手流通量と銀行準備金の比率は氣配の作用なりとする本書第一編の主張〔註〕は同圖の證據立てるものなることは何等疑を容れなす。

〔註〕 前掲一六三一—一七四。

本書に於ける研究を完成する最後のものは次の問題に答ふことに在る。即ち相對的流通量と一般價格水準との間に存する關係、即、公式  $P_t = \frac{MR+CR_t}{N+N_t}$  の確實性〔註一〕に付て吾が統計的研究は如何なる證明を與ふるものなり乎。價格水準は相對的流通量が増加するに従つて騰貴し、又夫が減少するに従つて下落するものなり乎。又は「ラフリン」の主張するが如く『數量説は事實を説明するものに非ず』又『合衆國に付て現在利用し得べき



第 四 圖

資料を見るときは、如何なる場合を検するも物價移動と流通數量との間には何等比例關係存すること無しとすること何人と雖も躊躇せざるべし」〔註二〕とすること正當なり乎。此の問題に答ふるが爲め第四圖表「相対的流通量對一般物價」を掲げたのである。

〔註一〕 此の公式は殆んど統計上の檢證を要しない、蓋夫れは自明の理なるが故である。吾人の數量説の統計的檢證の眞に重要なものは前二圖表に要約されて居る。若し此等二圖表より得られた結論が正當であるならば、本書第一編の相対的貨幣供給と物價水準との比例關係は論理的必然として生ずるのである。

〔註二〕 Principles, 327 et seqq.

本圖表は前掲二圖表と等しく自ら説明されて居る。曲線の一般的移動を全體として見るときも同様であるが、逐年に於ける個々の變動も亦驚くべき同一性を示すのである〔註一〕。

唯一つ本書が企てたるか如き概算的なる統計的研究に於て注意に値すべき並行移動よりの離脱は、其の比較的小なるもの一八八七年度及一八九九年の二箇年、其の比較的重大なるもの一八九三年の一箇年である。今、物價一般表中〔註二〕一八八七年及一八九九年度を見るときは、「コムモンズ」氏表を除く外同表に引用せられたる各物價表は總て右兩年に物價の騰貴せることを示して居る。又一八九三年に於ける相對的流通量の急激なる増加が顯著なる物價の變動を伴はざりしことは、同年度に於ける貨幣恐慌の特色たる正貨の多大なる貯藏に依つて説明することを得る。

〔註一〕 此の第四圖表に於ても前の第二及第三圖表に於けると同様に或る二三年の年度に多少の重複が存して居る。

〔註二〕 前掲「物價及賃金」表。

以上を以て余の研究を完了した。而して第二篇に於ける歸納的研究は第一篇に於ける演繹的研究に依つて得たる結論を證據立てるものなることが明になつた。於茲乎、吾人は結論して曰く、貨幣の價値は、其の他の物貨の價値と等しく、需要供給の基本的法則に依つて決定せらるゝ。然し乍ら爾餘の條件にして等しければ、市場物價の變動は之に正比例する流通媒介物の相對的供給量の變動を通じてのみ表示せられ又従つて實現せらるゝものである。更に小切手流通量は氣配にして變動せざれば銀行準備金の作用であり、又銀行準備金は貨幣供給額的作用なるが故に近代産業制に於ける小切手の巨大なる使用は、之を以て彼の經濟學の創始者が主張し又今尙經濟學攻究者の大多數が主張する所の古典的數量説が其の本質上眞理なることを覆すものでないのである。〔終〕

**A PARTIAL LIST OF AUTHORITIES CONSULTED IN  
THE PREPARATION OF THIS WORK.**

- Andrew, A. P. What Ought to be Called Money? Quarterly Journal of Economics, XIII. 218—227.
- Credit and the Value of Money. Publications of the American Economic Association, third series, VI. No. 1, 95—115.
- Anonymous. The Nature and Effects of Money; and of Credit as its Substitute. Biblical Repertory, XXXIV. 310—357.
- The Value of Money is Controlled by its Quantity. Banker's Magazine (New York), XXXV. 857—864.
- Arendt, O. Die vertragsmässige Doppelwährung. Berlin, 1880.
- Arnauné, Auguste. La Monnaie, le Crédit et le Change. Paris, 1894.
- Ashley, W. J. Aristotle's Doctrine of Barter. Quarterly Journal of Economics. IX. 333—342.
- Bagehot, Walter. Lombard Street. New York, 1833.



- Beaujou, A. *A Propos de la Théorie du Prix. Revue d'Économie Politique*, IV. 16—43.
- Beaure, Auguste. *Théorie et Pratique de la Monnaie*. Paris, 1898—1899. 2 v.
- Berlin Silver Commission, 1894. Report of the Proceedings, and the Report of the International Bimetallic Conference at London, May 2 and 3, 1894. Washington, 1896. (Senate Documents, No. 274, 53d Congress, 2d Session.)
- Böhm-Bawerk, Eugen von. *The Positive Theory of Capital*. (Innsbruck, 1889.) Translated by William Smart. London, 1891.
- Bolles, A. S. *The Financial History of the United States*. New York, 1879—1886. 3v.
- Bosanguet, J. W. *Metallic, Paper, and Credit Currency*. London, 1842.
- Bulletines of the Bureau (or Department) of Labor, Monthly. (Especially numbers 38, 51, 54, 57, 59, 75, and 77.) Washington.
- Bullock, Charles J. *Essays on the Monetary History of the United States*. New York, 1900.
- Cairnes, J. E. *Some Leading Principles of Political Economy Newly Expounded*. New York, 1874.

- Essays in Political Economy, Theoretical and Applied*. London, 1873.
- Cannon, James G. *Clearing Houses, their History, Methods and Administration*. New York, 1900.
- Carey, H. C. *Money: A Lecture*. New York, 1857.
- Carlile, W. W. *The Evolution of Modern Money*. London, 1901.
- Carver, T. N. *Value of Money Unit. Quarterly Journal of Economics*, XI. 429—435.
- Discussion on the Theory of Money. Publications of the American Economic Association*, third series, VI. No. 1, 125—131.
- Cassel, G. *Grundriss einer elementaren Preislehre. Zeitschrift für Staatswissenschaft*, LV. 395—458.
- Chalmers, Robert. *A History of Currency in the British Colonies*. London, 1893.
- Chevalier, M. *On the Probable Fall in the Value of Gold; the Commercial and Social Consequences which may ensue, and the Measures which it Envises*. Translated from the French by Richard Cobden. 2d ed. Manchester, 1859.
- Clare, George. *A Money-Market Primer and Key to the Exchanges*. London, 1902.

- The A B C of the Foreign Exchanges. London, 1901.
- Colwell, Stephen. The Ways and Means of Payment. Philadelphia, 1859.
- Commercial and Financial Chronicle (New York), Weekly. 1878—1909.
- Commission On International Exchange. Stability of International Exchange. Report on the Introduction of the Gold-Exchange Standard into China and other Silver-Using Countries. Washington, 1903. (House Document, No. 144, 58th Congress, 2d. Session.)
- Gold Standard in International Trade. Report on the Introduction of the Gold-Exchange Standard into China, the Philippine Islands, etc., and on the Stability of Exchange. Washington, 1904.
- Conant, Charles. The Development of Credit. Journal of Political Economy, VII. 161—181.
- Securities as a Means of Payment. Annals of the American Academy of Political and Social Science, XIV. 181—203.
- The Law of the Value of Money. Annals of the American Academy of Political and Social Science, XVI. 189—211.
- Future of the Limping Standard. Political Science Quarterly, XVIII. 216—237.
- What determines the Value of Money? Quarterly Journal of Economics, XVIII. 551—569.
- A History of Modern Banks of Issue (especially chaps. xxi and xxii.) New York, 1902.
- (See, also, Commission On International Exchange.)
- Conrad, J. and others. Handwörterbuch der Staatswissenschaften. Zweite. gänzlich umgearbeitete Auflage. Jena, 1898—1901. 7 v.
- Daniel, John W. A Treatise on the Law of Negotiable Instruments. 4th ed. New York, 1891.
- Darwin, L. Bimetallism; a Summary and Examination of the Arguments for and against a Bimetallic System of Currency. London, 1897.
- Davanzati, Bernardo. Lezione delle Monete (1588). Florence, 1638.
- De Knight, W. F., and Tiltman, J. F. History of the Currency of the Country. Washington, 1900.
- Des Essars, Pierre. La Vitesse de la Circulation de la Monnaie. La Journal de

- la Société de Statistique de Paris, XXXVI. 143—151.
- Dewey, Davis R. *Financial History of the United States*. New York, 1907.
- Dunber, Charles F. *Chapters on the Theory and History of Banking*. New York, 1892.
- Dun's Review (New York), Weekly.
- Edgeworth, F. Y. On the Method of Ascertaining a Change in the Value of Gold. *Journal of the Statistical Society*, XLVI. 714—718.
- A Defence of Index Numbers. *Economic Journal*, VI. 132—142.
- Appreciation of Gold. *Quarterly Journal of Economics*, III. 153—169.
- Emery, H. C. *Speculation on the Stock and Produce Exchanges of the United States*. New York, 1890.
- Falkner, R. P. Report of the Finance Committee of the United States Senate on Retail Prices. Washington, 1892 3v. (Senate Documents, No. 986, 52d Congress, 1st Session.)
- Report on Wholesale Prices. Washington, 1893. 4v. (Senate Documents, No. 1394, 52d Congress, 2d Session.)

- Statistics of Prices, Theory and Practice. *Journal of the American Statistical Association*, III. 119.
- Farrer, Thomas Henry. *What Do We Pay With?* London, 1889.
- Studies in Currency*. London, 1898.
- Fetter, Frank A. *The Principles of Economics with Applications to Practical Problems*. New York, 1905.
- Fisher, Irving. *Appreciation and Interest*. Publications of the American Economic Association, XI. No. 4, 331—442. New York, 1896.
- The Role of Capital in Economic Theory. *Economic Journal*, VII. 511—537.
- The Mechanics of Bimetallism. *Economic Journal*, IV. 527—537.
- Review of Walsh, The Measurement of Exchange-Values. *Yale Review*, XI. 109—112.
- Fisher, Willard. *Money and Credit Paper in the Modern Market*. *Journal of Political Economy*, III. 391—413.
- Flamingo, G. M. *Prevailing Theories in Europe as to the Influence of Money on International Exchange*. *Yale Review*, VI. 361.

- Foville, Alfred de. *La Théorie Quantitative et les Prix. L'Economiste Français*, XXIV (1). 451—453; 561—563; 629—631.
- Giffen, Robert. *Essays in Finance*. First series, 4th ed. London, 1886. Second series, 3d ed. London, 1895.
- The Case against Bimetallism. London, 1892.
- A Problem in Money. *The Nineteenth Century*, XXVI. 863—881.
- Gold and Silver Commission. Reports of the Royal Commission Appointed to Inquire into the Recent changes in the Relative Values of the Precious Metals. London, 1888. 4 parts.
- Goschen, George J. *The Theory of Foreign Exchanges*. 2d ed. London, 1901.
- Hadley, A. T. *Economics; an Account of the Relations between Private Property and Public Welfare*. New York, 1902.
- Hammond, M. B. *The Cotton Industry; an Essay in American Economic History*. Part I. Publications of the American Economic Association. 2d series. No. 1. New York, 1897.
- Hardy, Miss S. McLean. *The Quantity of Money and Prices, 1860—1891*. An

- Inductive Study. *Journal of Political Economy*, III. 145—168.
- Haupt, O. *Arbitrages et Parités*. 8th ed. Paris, 1894.
- The Monetary Question in 1892. 2d ed. London, 1892.
- Hazell, A. P. *The Quantitative Theory of Money from the Marxist Standpoint*. *Journal of Political Economy*, VII. 78—85.
- Helferich, J. von. *Von den periodischen Schwankungen im Werth der edeln Metalle von der Entdeckung Amerikas bis zum Jahr 1830*. Nürnberg, 1843.
- Hermann, Friedrich, B. W. *Staatswirtschaftliche Untersuchungen über Vermögen, Wirtschaft, Productivität der Arbeiten, Kapital, Preis, Gewinn, Einkommen und Verbrauch*. Munich, 1832.
- Hildebrand, Richard. *Die Theorie des Geldes. Kritische Untersuchungen*. Jena, 1883.
- Hobson, John A. *The Economics of Distribution*. New York, 1900.
- Hoffman, J. G. *Die Lehre vom Gelde*. Berlin, 1838.
- Hume, David. *Essays Moral, Political and Literary*. Edited by T. II. Green and T. H. Grose. New Edition. London. 1889. 2v.

- Indian Currency Committee of 1898. Report, Minutes and Evidence. 4 parts. London, 1898—1899.
- Indianapolis Convention of Boards of Trade, Chambers of Commerce, etc. Report of the Monetary Commission. Chicago, 1898.
- International Monetary Conference, Paris, 1878. Report of Proceedings. Washington, 1879. (Senate Executive Document, No. 58, 45th Congress, 3d Session.)
- International Monetary Conference, Paris, 1881. Report of Proceedings. Washington 1887.
- International Monetary Conference, Brussels, 1892. Report of the Commissioners on Behalf of the United States. Washington, 1893.
- Industrial Commission. Report of the United States Industrial Commission. Washington, 1900—1902. 19v.
- Interstate Commerce Commission, Fourteenth Annual Report of the Statistics of Railways in the United States. Washington, 1901.
- Jacobs, William. An Historical Inquiry into the Production and Consumption of the Precious Metals. London, 1881. 2v.

- Jenks, J. W. Currency Problems in the Orient. Publications of the American Economic Association, third series, IV. No. 1, 269—279.
- (See also Commission on International Exchange.)
- Jevons, W. Stanley. Investigations in Currency and Finance. London, 1884.
- Money and the Mechanism of Exchange. New York, 1896.
- On the Variations of Prices and the Value of the Currency since 1782. Journal of the Statistical Society, XXVIII. 294—320.
- Jones, E. D. Economic Crises. New York, 1900.
- Johnson, Joseph French. Money and Currency. New York, 1906.
- Justinian. Pandectae Justinianae. Pothier Edition. Paris, 1818—1820. 5v.
- Kemmerer, E. W. The Higglings of the Market. Quarterly Journal of Economics, XVII. 670—677.
- The Establishment of the Gold-Exchange Standard in the Philippines. Quarterly Journal of Economics, XIX. 585—609.
- First and Second Annual Reports of the Chief of the Division of the Currency, Philippine Islands. Manila, 1904, 1905.

- A Gold Standard for the Straits Settlements, I, II. *Political Science Quarterly*, XIX. 636—649; XXI. 663—698.
- Kinley, David. *Credit Instruments in Retail Trade*. *Journal of Political Economy*, III. 203—217.
- Credit Instruments in Business Transactions*. *Journal of Political Economy*, V. 157—174.
- Money, a Study of the Theory of the Medium of Exchange*. New York, 1904.
- The Relation of the Credit System to the Value of Money*. Publications of the American Economic Association, third series, VI. No. 1, 84—94; 138, 139.
- Knies, Karl G. A. *Geld und Credit*. Berlin, 1879—1885. 2v.
- Laughlin, J. Lawrence. *The History of Bimetallism in the United States*. New York, 1895.
- The Principles of Money*. New York, 1903.
- A Theory of Prices*. Publications of the American Economic Association, third series, VI. No. 1. 66—83; 133—135.
- Present Monetary Problems*. *Popular Science Monthly*, LXXVII. No. 3, 209—221.

- Laveleye, Émile de. *Éléments d'Économie Politique*. Paris, 1892.
- La Monnaie et le Bimétallisme International*. 2d ed. Paris, 1891.
- Commonplace Fallacies Concerning Money*. *Contemporary Review*, XI. 788—806; 899—920.
- Lees, W. N. *The Drain of Silver to the East and the Currency of India*. London, 1864.
- Lehr, J. Wert, Grenzwert und Preis. *Jahrbücher für Nationalökonomie*. N. F., XIX. 17.
- Leroy-Baulieu, Paul. *Traité Théorique et Pratique d'Économie Politique*. Paris, 1896. 5v.
- Lindsay, A. M. *Ricardo's Exchange Remedy*. London, 1892.
- Locke, John. *The Works of John Locke*. Eleventh Edition. London, 1812. 10v.
- Loria, Achille. *Studi sul Valore della Moneta*. Torino, 1891.
- Lubbock, John. On the "Country Clearings." *Journal of Statistical Society*, XXVIII. 361—368.
- MacLeod, Henry Dunning. *The Theory of Credit*. London, 1889—1891. 2v.

- Malthus, T. R. *The Measure of Value Stated and Illustrated*. London 1823.
- Mayo-Smith, R. *Money and Prices*. *Political Science Quarterly*, XV. 196—216.
- Menger, Carl. *Grundsätze der Volkswirtschaftslehre*. Vienna, 1871.
- On the Origin of Money. *Economic Journal*, II. 239—255.
- Merriam, Lucius S. *Money as a Measure of Value*. *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, IV. 966—969.
- The Theory of Final Utility in its Relation to Money and the Standard of Deferred Payments. *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, III. 483—501.
- Messedaglia, A. *Le Moneta e il Sistema Monetario in Generale*. Rome, 1882—1883.
- Mexican Monetary Commission, 1903. Report (Spanish). City of Mexico, 1903—1904. 5 parts.
- Mill, John Stuart. *Principles of Political Economy*. Appleton edition. New York, 1904. 2v.
- Mitchell, W. E. *Quantity Theory of Money*. *Journal of Political Economy*, IV. 139—165.

- Mongin, Marcel. *La Monnaie et La Mesure des Valeurs*. *Revue d'Économie Politique*, XI. 144—169.
- De L'Abondance de la Monnaie Métallique. *Revue d'Économie Politique*, II. 364—386.
- Monthly Summary of Commerce and Finance of the United States. Washington, 1901—1909.
- Morse, John T., Jr. *A Treatise on the Law of Banks and Banking*. 4th ed. Boston, 1903. 2v.
- Mulhall, M. G. *Prices and the Gold Supply*. *Contemporary Review*, XLVIII. 188—199.
- History of Prices since the Year 1850. London, 1885.
- Murhard, Karl. *Theorie des Geldes und der Münze*. Altenburg, 1817.
- Neumann, F. J. *Die Begriffe Gut, Werth, Preis, Vermögen, Wirthschaft, Ertrag, Einnahme und Einkommen. Die Gestaltung des Preises*. Schönburg's Handbuch der politischen Oekonomie, I. 129—334. Zweite stark vermehrte Auflage. Tübingen, 1885, 1886. 3v.

- Newcomb, Simon. *Principles of Political Economy*. New York (cop. 1885).  
Newmarch, W. *The New Supplies of Gold*. Revised edition. London, 1853.  
Nicholson, J. Shield. *A Treatise on Money, and Essays on Monetary Problems*.  
3d ed. London, 1895.  
—Principles of Political Economy. New York, 1893—1901. 3v.  
Norman, John Henry. *Norman's Universal Cambist*. 2d ed. London, 1897.  
Norton, Charles P. *Hand-Book of the Law of Bills and Notes*. 3d ed. St. Paul,  
Minn., 1900.  
Norton, J. P. *Statistical Studies in the New York Money Market*. New York,  
1902.  
Noyes, Alexander D. *Thirty Years of American Finance*. New York, 1898.  
Observer. *The Value of Money is Controlled by its Quantity*. *The Banker's*  
*Magazine* (N. Y.) XXXV. 857—864.  
Palgrave, R. H. Inglis. *Dictionary of Political Economy*. London. 1900—1901 3v.  
—Bank Rate and the Money Market in England, France, Germany, Holland  
and Belgium. London, 1903.

- Pantaleoni, Maffeo. *Pure Economics*. Translated by Bruce, London, 1898.  
Persons, Warren M. *The Quantity Theory as Tested by Kemmerer*. *The Quarterly*  
*Journal of Economics*, XXII. 274—289.  
Pierson, N. G. *Index Numbers and the Appreciation of Gold*. *Economic Journal*,  
V. 329.  
Price, L. L. *Money and its Relations to Prices*. London, 1896.  
—The Relations of Economic Science to Practical Affairs. *Journal of the*  
*Statistical Society*, LVIII. 591—609.  
Probyn, L. C. *Indian Coinage and Currency*. London, 1897.  
Reports of the Secretary of the Treasury, 1881—1908. Washington.  
Reports of the Comptroller of the Currency, 1881—1908. Washington.  
Ricardo, David. *The Works of David Ricardo*. Edited by J. R. McCullough.  
New edition. London, 1871.  
—Letters of Ricardo to Malthus, 1810—1823. Edited by James Bonar. Oxford,  
1887.  
Robertson, J. Barr. *The Currency Policy of India*. *Journal of the Society of*



Arts, March 27, 1903.

- Ross, Edward A. The Total Utility Standard of Deferred Payments. *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, IV. 425—441.
- Sauerbeck, Augustus. Prices of Commodities and the Precious Metals. *Journal of the Statistical Society*, XLIX. 581—648.
- Schmidt, Hermann. *Tate's Modern Cambist*. 23d ed. London, 1902.
- Schwiedland, Eugène. Étude sur les Rapports existant entre les Prix en Gros et en Detail. *Revue d'Économie Politique*, IV. 43—53.
- Scott, W. A. *The Quantity Theory*. *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, IX. 212—230.
- Money and Banking. New York, 1903.
- Sidgwick, Henry. *The Principles of Political Economy*. London, 1883.
- Senior, N. W. Three Lectures on the Cost of Obtaining Money, and on Some Effects of Paper Money. London, 1830.
- Shaw, W. A. *The History of Currency 1252 to 1894*. New York, 1899.
- Sherwood, Sidney. *The History and Theory of Money*. Philadelphia, 1893.

—The Nature and Mechanism of Credit. *Quarterly Journal of Economics*, VIII. 149—167.

- Simmel, G. *Philosophie des Geldes*. Leipzig, 1900.
- Smith, Adam. *Wealth of Nations*. Oxford, 1880. 2v.
- Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms. Edited by Edwin Cannan. Oxford, 1896.
- Soetbeer, A. *Edelmetall-Produktion und Werthverhältniss Zwischen Gold und Silber seit der Entdeckung Amerika's bis zur Gegenwart*. Gotha, 1879.
- Literaturnachweis über Geld und Münzwesen insb:ondere über den Währungsstreit, 1871—1891. Berlin, 1892.
- Statistical Abstracts for the United States, 1882—1907.
- Straits Settlements Currency Committee. Report, Minutes and Evidence. 2 parts. London, 1903.
- Sumner, William G. *A History of American Currency*. New York, 1878.
- Taussig, F. W. *The Silver Situation in the United States*. 2d ed. New York, 1896.

- Thornton, H. An Inquiry into the Nature and Effects of the Paper Credit of Great Britain. London, 1802.
- Tooke, T. Considerations on the State of the Currency. 2d ed. London, 1826.
- Tooke, T., and Newmarch, W. History of Prices and of the State of the Circulation from 1793 to 1856. London, 1838—1857. 6v.
- Trenholm, William L. The People's Money. New York, 1893.
- Turgot, A. R. J. Reflections on the Formation and Distribution of Riches, 1770. Edited by W. J. Ashley. New York, 1898.
- Viti de Marco, A. de. Saggi di Economia e Finanza. Rome, 1898.
- Moneta e Prezzi ossia il Principio Quantitativo in Rapporto alla Questione Monetaria. Città di Castello, 1885.
- Wagner, A. Der Credit und das Bankwesen. Schönberg's Handbuch der politischen Oekonomie, I. 397—502. Zweite stark vermehrte Auflage. Tübingen 1885, 1886. 3v.
- Stattpapiergeld, Reichs-Kassenscheine und Banknoten, usw. Berlin, 1874.
- Walker, F. A. Political Economy. 3d ed. New York, 1888.

- Money. New York, 1891.
- Money in its Relations to Trade and Industry. New York, 1889.
- International Bimetallism. New York, 1897.
- Discussions in Economics and Statistics. Edited by Davis R. Dewey. New York, 1899. 2v.
- Quantity Theory of Money. Palgrave's Dictionary of Political Economy, III. 244.
- The Wages Question. New York, 1891.
- Walras, Leon. Théorie de la Monnaie. Lausanne, 1886.
- Théorie du Credit. Revue d'Économie Politique, XII. 128—143.
- Geometrical Theory of the Determination of Prices. Annals of the American Academy of Political and Social Science, III. 45—64.
- Walsh, Correa M. The Measurement of General Exchange Value. New York, 1901.
- The Fundamental Problem in Monetary Science. New York, 1903.
- Watson, D. K. History of American Coinage. New York, 1899.
- Westgarth, William. Half a Century of Australasian Progress; a Personal Re-

- rospect. London, 1889.
- The Colony of Victoria. London, 1864.
- Whitaker, A. C. The Ricardian Theory of Gold Movements and Professor Laughlin's Views on Money. Quarterly Journal of Economics, XVIII. 220—254.
- White, Horace. Money and Banking. 2d ed. Boston, 1903.
- Wright, Carroll D. Practical Sociology. New York, 1899.
- Wicksell, K. Geldzins und Güterpreis. Jena, 1898.
- Wieser, E. von. Natural Value. Translated by Malloch. London, 1891.
- Willis, H. Parker. Credit Devices and the Quantity Theory. Journal of Political Economy, IV. 281—308.
- The History and Present Application of the Quantity Theory. Journal of Political Economy, IV. 417—448.
- Wolowski, L. Le Change et la Circulation. Paris, 1869.
- L'Or et l'Argent. <sup>2</sup>Paris, 1870.
- Zane, John M. The Law of Banks and Banking. Chicago, 1900.
- Zuckerlandl, Robert. Zur Theorie des Preises; mit besonderer Berücksichtigung

der geschichtlichen Entwicklung der Lehre. Leipzig, 1889.

—La Mesure des Transformations de la Valeur de la Monnaie. Revue d'Economie Politique, VIII. 237—253.

版 權 所 有

發 行 者 著 者



物 價 決 定 法 則  
定 價 金 貳 圓 五 拾 錢

大正十年九月廿一日發行  
大正十年九月廿一日發行  
譯者 糸井靖之  
譯者 大田信吉  
發行者 內田作藏  
東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番六四一  
東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番五三三

發 行 所

內 田 老 鶴 園

東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番六四一  
東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番五三三

(秀 英 會 印 刷)

502

277

終

